千代田都市づくり白書

〔２〕データ・資料編

CONTENTS

1．都市の変化

1.1．居住 4
1.2．世帯と住まい 23
1.3．通勤・通学 31
1.4．滞在・交流 35
1.5．土地利用・建物利用 37

2．主な都市施設

2.1．道路 51
2.2．みどりと公園 54
2.3．上下水道 57

3．地域の資源

3.1．産業 59
3.2．観光・文化財・史跡・歴史的建造物 64

4．地域の現状・動向

4.1．番町地域 68
4.2．富士見地域 76
4.3．神保町地域 84
4.4．神田公園地域 92
4.5．万世橋地域 100
4.6．和泉橋地域 108
4.7．大手町・丸の内・有楽町・永田町地域 116

5．都市づくりの成果・課題

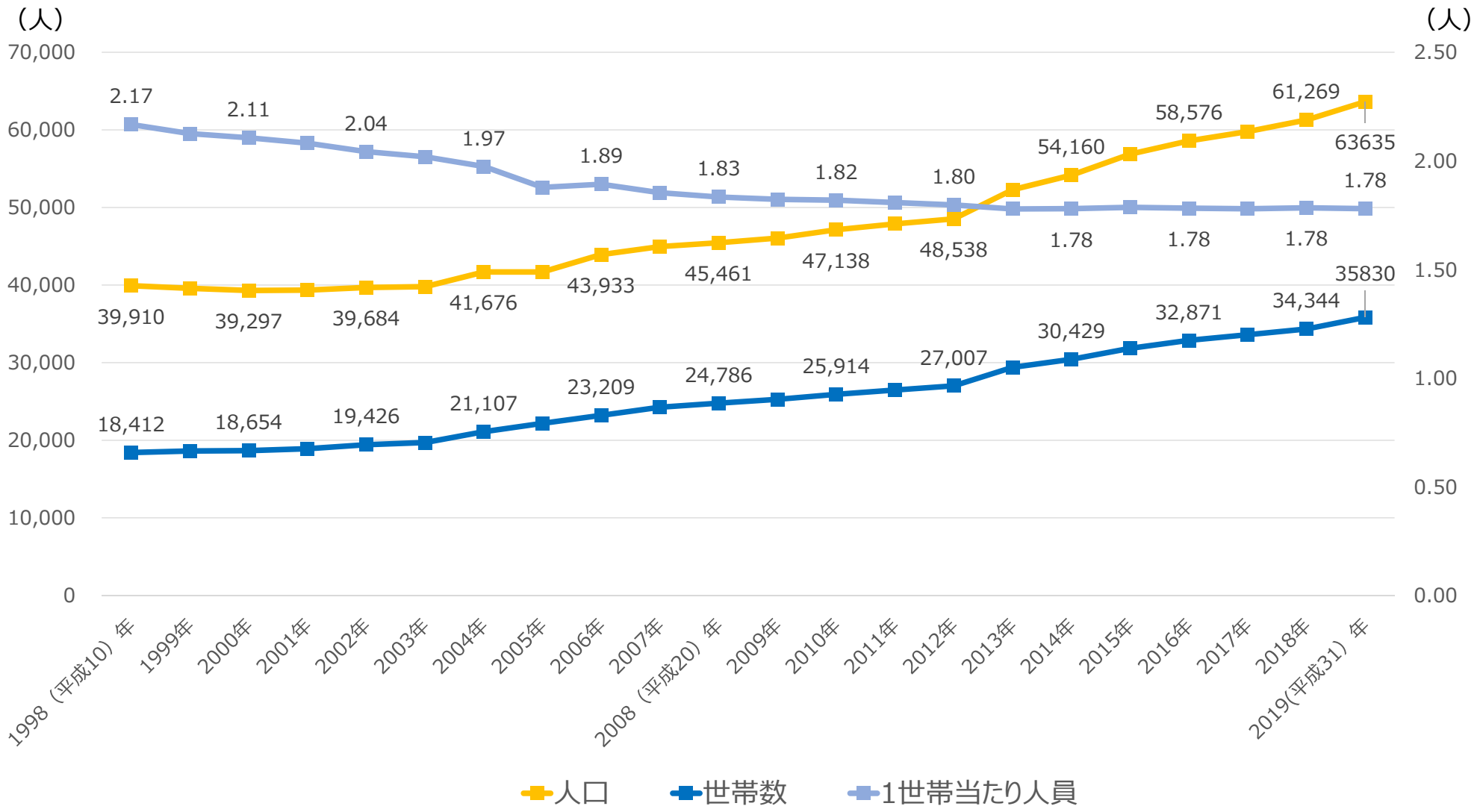
5.1．住宅・住環境整備 ～多様な人が住む、心ふれあうまちに～ 127
5.2．道路・交通体系整備 ～歩行者と環境にやさしいみち、駅に～ 136
5.3．緑と水辺の整備～緑と水辺を守り、つくり、つなげ、より身近なものに～ 143
5.4．防災まちづくり ～災害に強く、安心・安全に暮らせるまちに～ 147
5.5．福祉のまちづくり～だれもが暮らしやすく、活動しやすいまちに～ 153
5.6．景観づくり ～まちの個性や魅力を活かした、愛される景観に～ 157
5.7．環境と調和したまちづくり～次世代に継承する、地球環境に配慮したまちに～ 160
5.8．土地利用 ～きめ細かい土地利用を進め、住と職の調和したまちに～ 167

１．都市の変化

１.１．居住 4
１.２．世帯と住まい 23
１.３．通勤･通学 31
１.４．滞在･交流 36
１.５．土地利用･建物利用 38

1　人口、世帯数、1世帯当たり人員の推移 ～急速な人口増加はピークを越え逓増傾向へ～

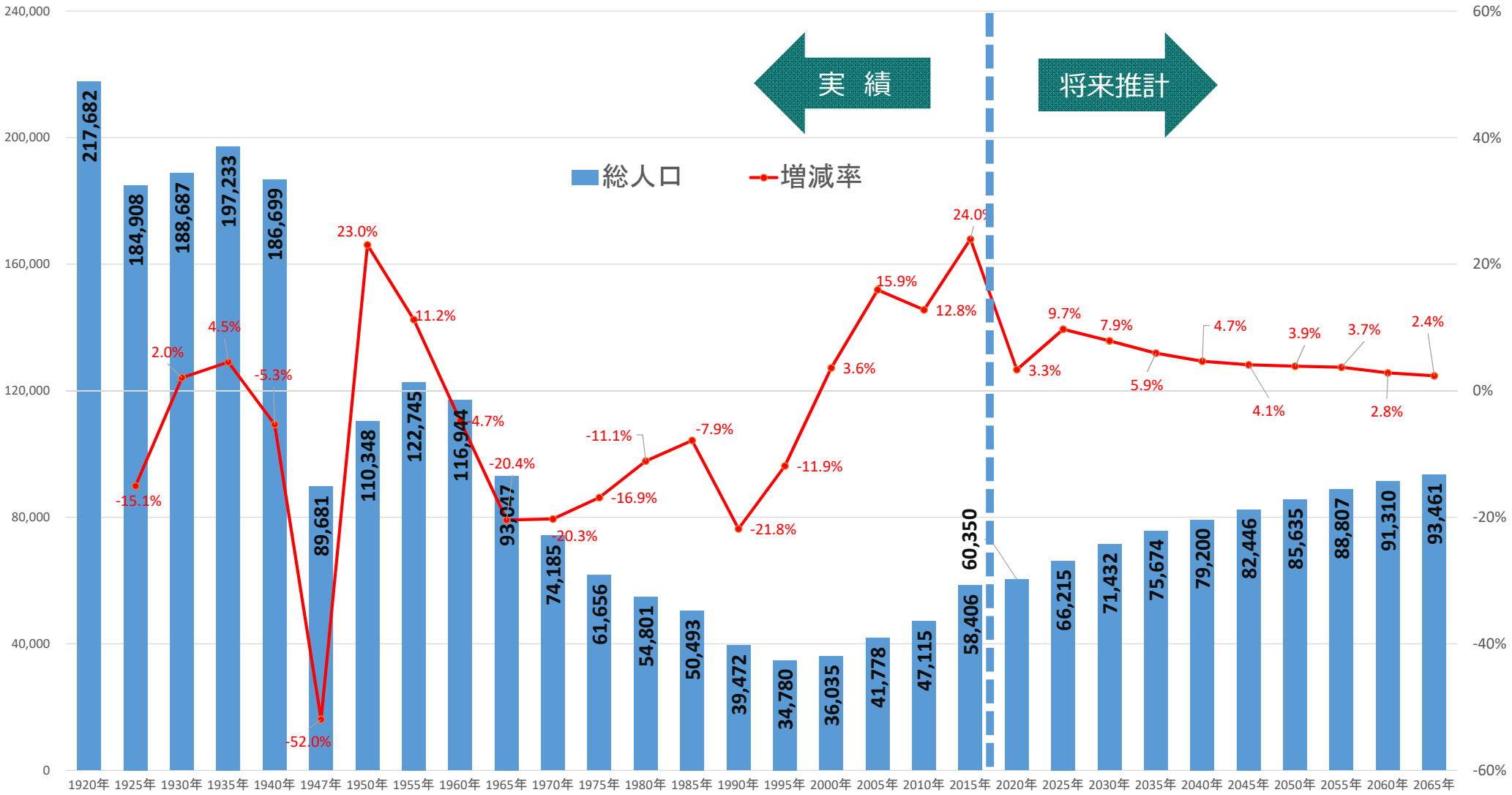
住民基本台帳に基づく人口は、1998（平成10）年1月1日現在で39,910人となり、区政史上初めて4万人を割り込みました。2000（平成12）年に最少となり、以降、増加に転じて、この20年間に約50%増加しました。2019（平成31）年1月1日現在、63,635人で東京23区の中では最も少なくなっています。また、世帯数は20年間で約94%増加し、35,830世帯となっています。人口増を上回る世帯数の増に伴い、1世帯当たり人員は減少を続けてきましたが、ここ数年は、1.78人程度でほぼ横ばいで推移しています。



住民基本台帳　千代田区ＨＰより

2　人口の推移と将来推計　～人口増加は、今後も続く見込み～

国勢調査で概ね100年間の人口動向をみてみると、戦後に約9万人に半減した人口はいったん増加に転じ、12万人を超えましたが、高度成長期以降一貫して減少し、1990（平成2）年～ 2000（平成12)年には、4万人を割り込みました。2005（平成17）年に4万人台に回復してから急激に増加し、2010（平成22）年～2015（平成27）年の人口増加率は24%と突出して高くなっています。「平成30年千代田区人口推計」では、今後も緩やかに増加を続け、2060年には約9万人を超えると推計されています。



実績は国勢調査。将来推計は千代田区人口推計による。
実績については外国人を含み、人口推計においては外国人を含まない。

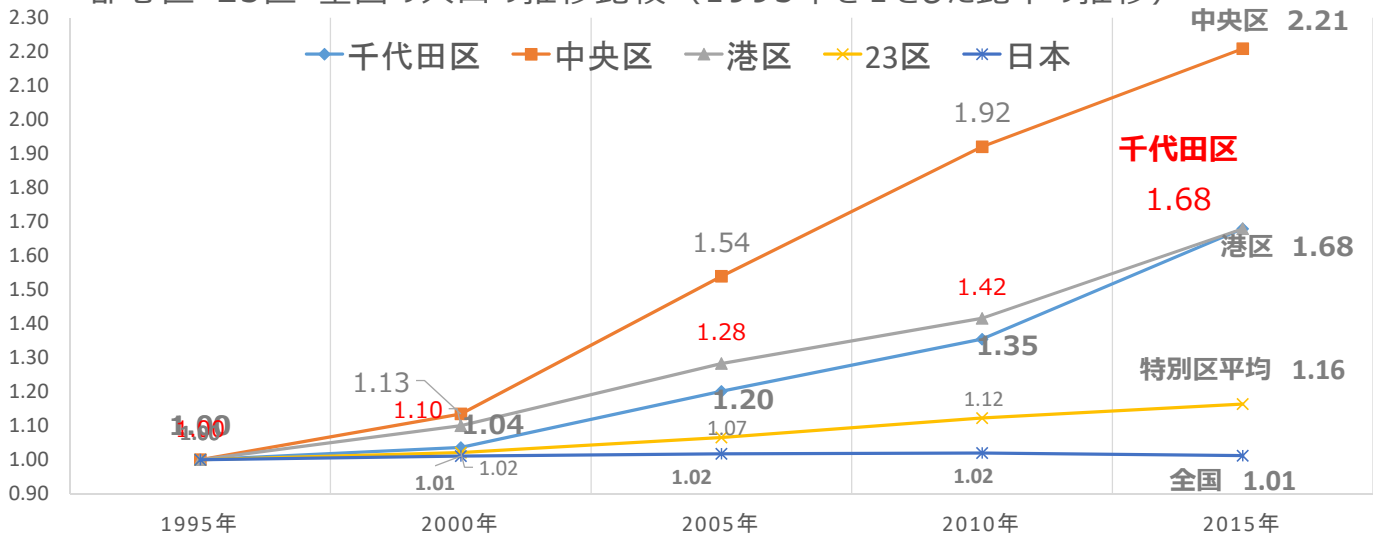
3　人口推移都市間比較　～日本の人口は減少局面、大都市は増加が続く。東京都心三区で急増～

国勢調査に基づく人口の動向を全国、他の都市と比較してみると、我が国の人口は、2010（平成22）年、以降減少局面に入っているのに対し、千代田区・中央区・港区の「都心三区」はこの20年間一貫して増加しています。他の大都市や特別区でも増加傾向が続いていますが、都心三区の増加率はとりわけ高くなっています。千代田区では、2010（平成22）年から2015（平成27）年の5年間で人口が1万人以上増え、増加率は24%を記録し、この20年間では、およそ2万４千人増、率にして約68%の増加となっています。

● 常住人口の推移・他の大都市、東京23区・東京都心区との比較

	1995年	2000年		2005年		2010年		2015年	
	人口（人）	人口（人）	増加率	人口（人）	増加率	人口（人）	増加率	人口（人）	増加率
千代田区	**34,780**	**36,035**	**3.6%**	**41,778**	**15.9%**	**47,115**	**12.8%**	**58,406**	**24.0%**
中央区	63,923	72,526	13.5%	98,399	35.7%	122,762	24.8%	141,183	15.0%
港区	144,885	159,398	10.0%	185,861	16.6%	205,131	10.4%	243,283	18.6%
23区	7,967,614	8,134,688	2.1%	8,489,653	4.4%	8,945,695	5.4%	9,272,740	3.7%
横浜市	3,307,136	3,426,651	3.6%	3,579,628	4.5%	3,688,773	3.0%	3,724,844	1.0%
名古屋市	2,152,184	2,171,557	0.9%	2,215,062	2.0%	2,263,894	2.2%	2,295,638	1.4%
大阪市	2,602,421	2,598,774	**-0.1%**	2,628,811	1.2%	2,665,314	1.4%	2,691,185	1.0%
福岡市	1,284,795	1,341,470	4.4%	1,401,279	4.5%	1,463,743	4.5%	1,538,681	5.1%
全国	125,570,246	126,925,843	1.1%	127,767,994	0.7%	128,057,352	0.2%	127,094,745	**-0.8%**

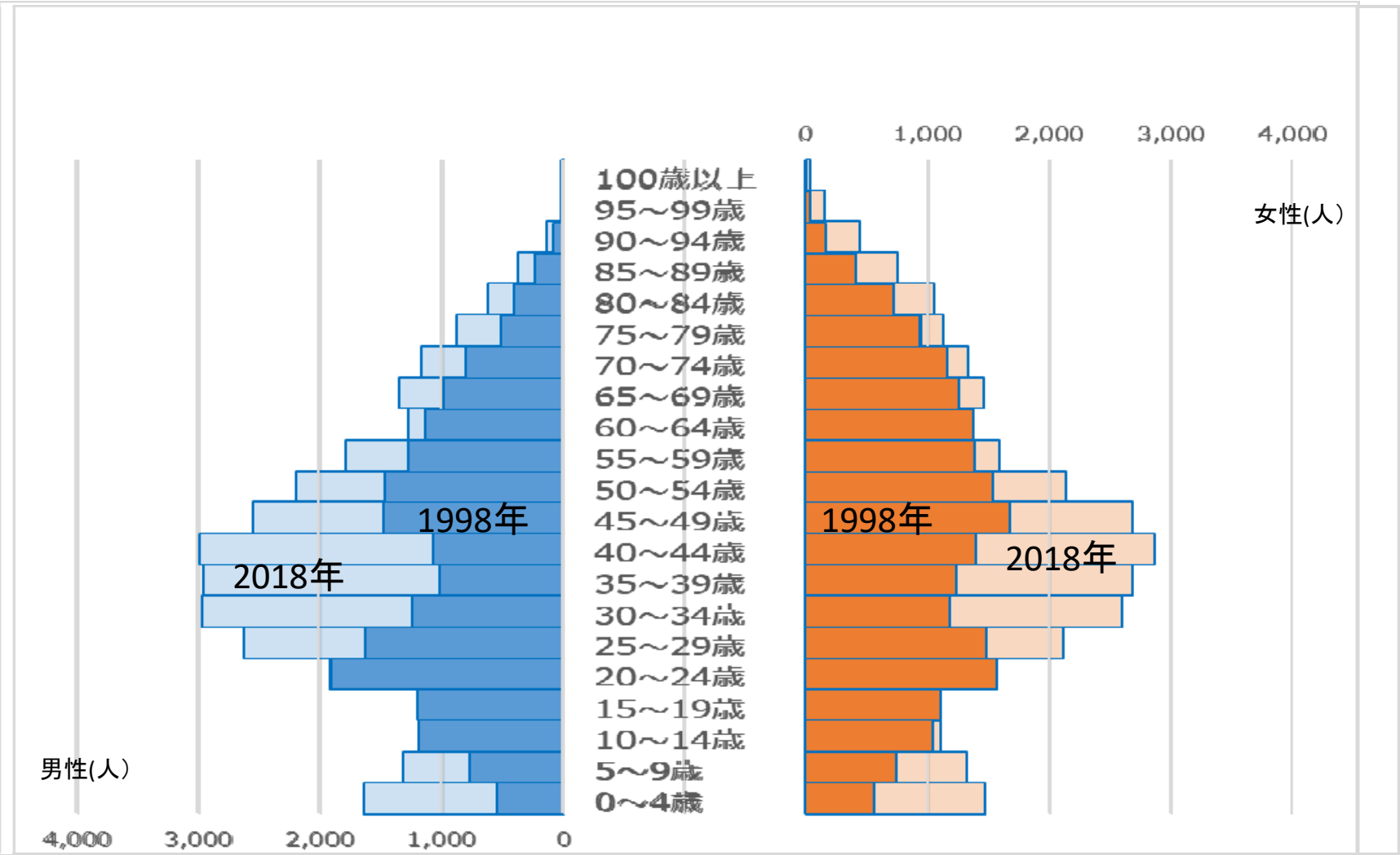
都心区・23区・全国の人口の推移比較（1995年を１とした比率の推移）



出典：国勢調査

4　年代別人口構成の動向 ～構成割合に顕著な変化、30～40歳代・生産年齢人口急増～

2018（平成30）年と20年前、1998（平成10）年の千代田区の人口構造を住民基本台帳のデータで比べてみました。20年前にはファミリー層といわれる「30～40歳代」の人口は相対的少なく、グラフに顕著なくびれがみられました。2018年のグラフでは、逆にこの世代が急増しており、人口ピラミッドの形が大きく変わっています。また、60歳代の人口構成割合が低くなっている一方で、年少人口は年齢が低くなるほど構成比が増えていることが見て取れます。



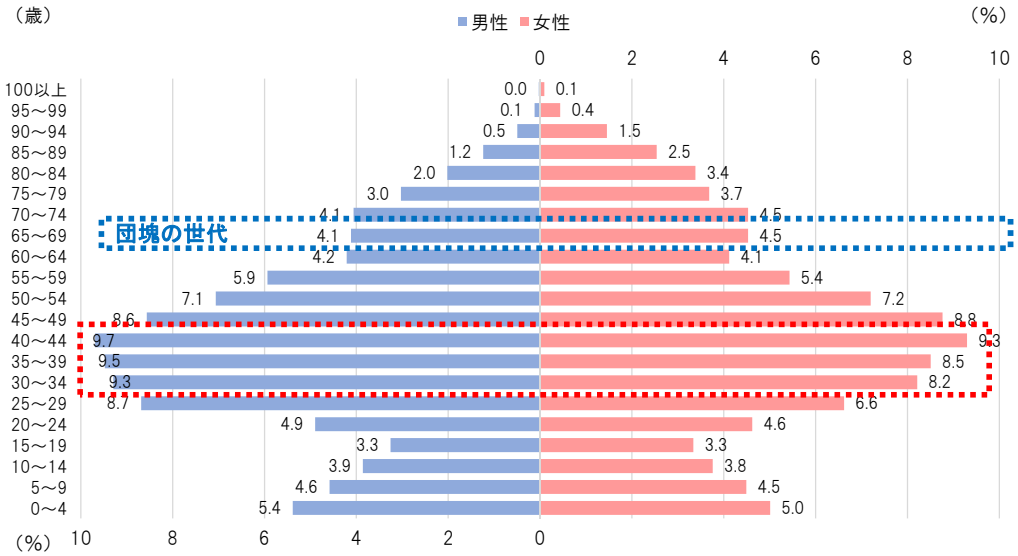
5　人口の年齢別構成　都・国と比較　～生産年齢人口構成比高い～

2019（平成31）年1月の千代田区の人口の年齢別構成比と、同月の東京都の構成比、2018（平成30）年10月の全国の構成比を比較してみました。

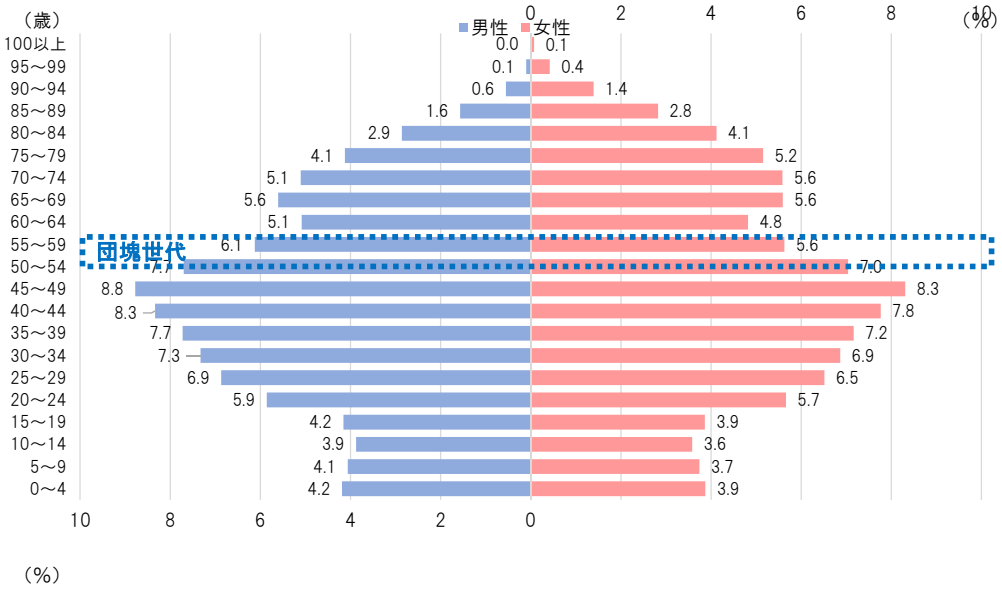
1947（昭和22）～1949（昭和24）年の第一次ベビーブームに生まれた「団塊の世代」である「65～69歳の世代」に着目すると、全国では男性7.4%、女性7.5%とすべての世代を通じて構成比が２番目に高くなっていますが、若年層の人口の流入が多い東京都ではそれよりも低く、男性6.1%、女性5.6%に、千代田区はさらに低く、男性4.1%、女性4.5%と全国の構成比に比べ3%以上、東京都と比べても男性で1.6%、女性で1.1%低くなっています。

国や都に比べて、20～59歳までの生産年齢人口が高いことが見て取れます。

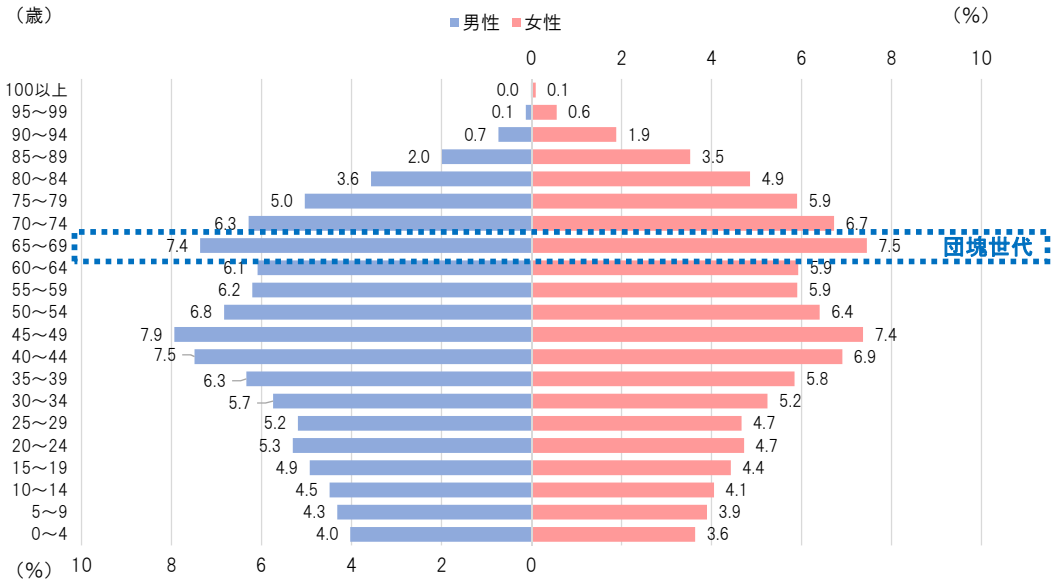
2019（平成３１）年千代田区（住民基本台帳人口）



2019（平成３１）年１月　東京都（住民基本台帳人口）



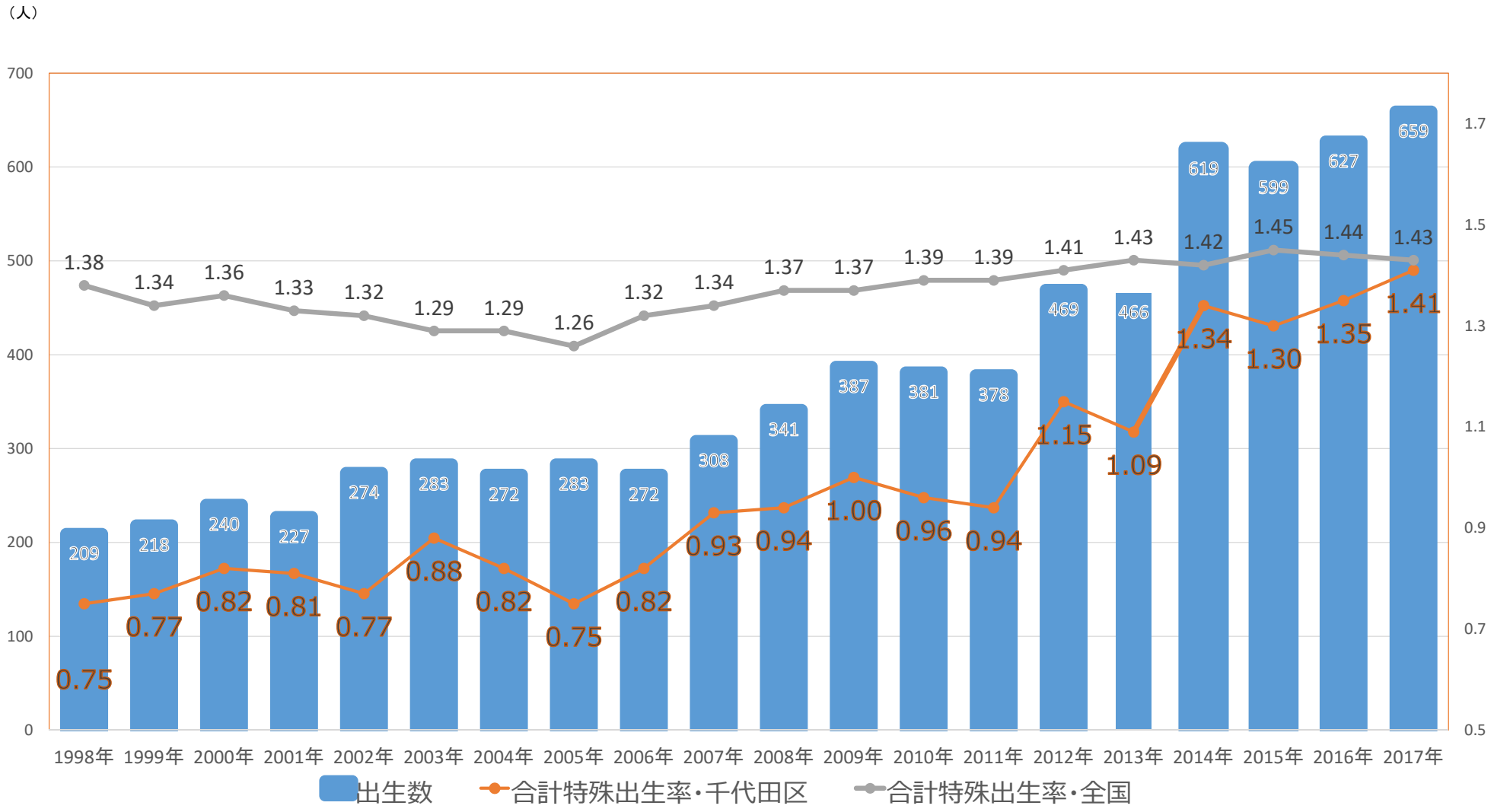
2018（平成30）年10月　全国（総務省）



6　出生数と出生率の推移　～出世数増加続く。合計特殊出生率は微増も全国平均を下回る～

● 出生数と合計特殊出生率の推移

1998（平成10）年以降、出生数は増加傾向を継続しており、およそ20年の間に209人から659人と3倍になっています。
千代田区の合計特殊出生率も一貫して増加しており、最低値の0.75から2017年には1.41にまで伸長しましたが、全国の合計特殊出生率1.43に迫ってきました。

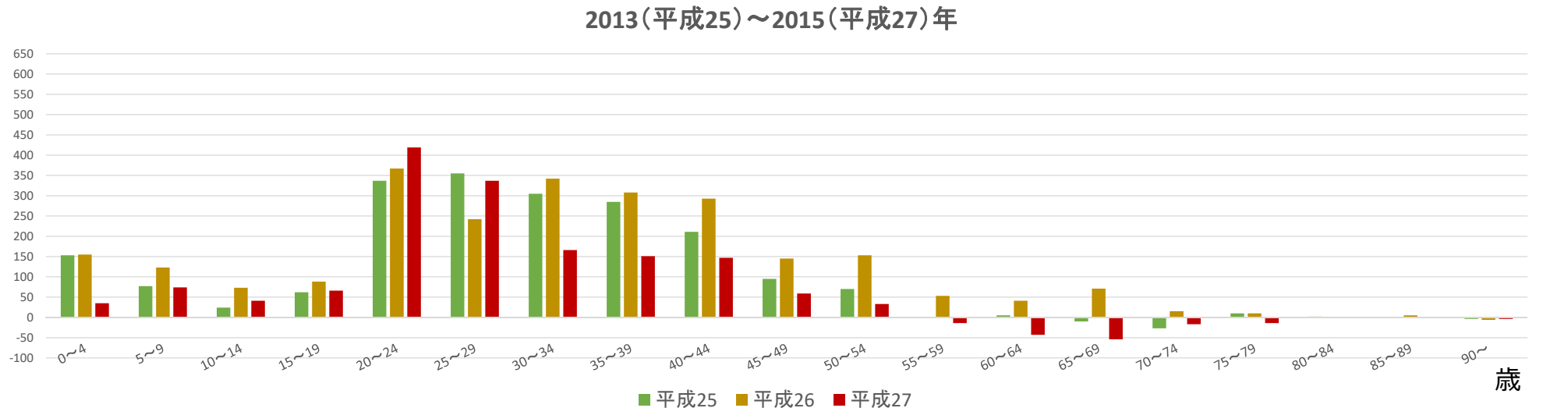


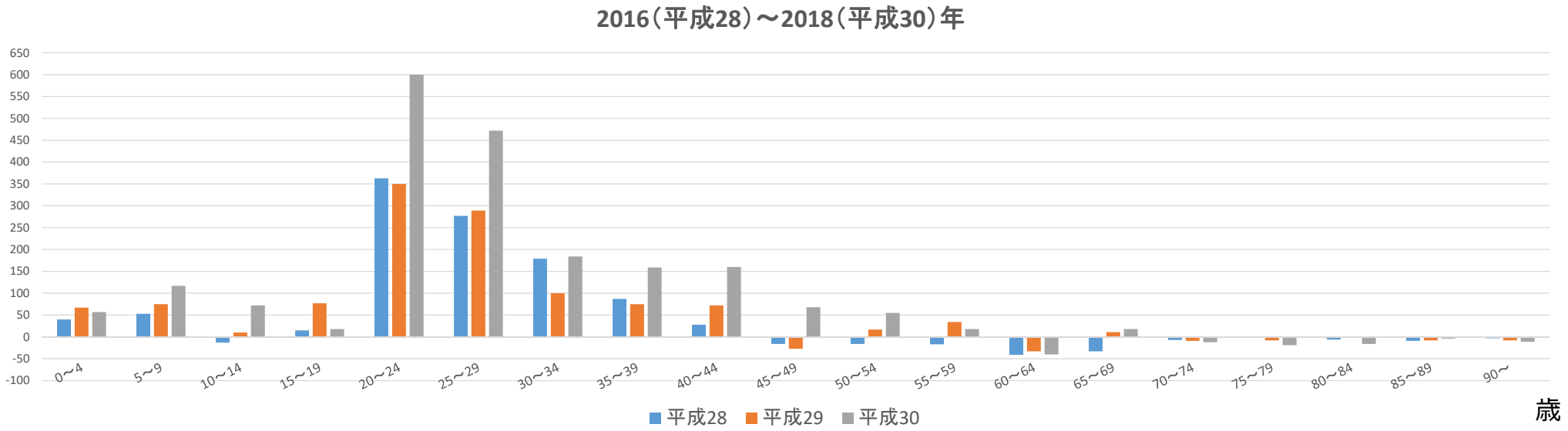
特別区の統計及び東京都人口動態統計年報

7　世代別社会増減の動向　～20歳代から40歳代前半の転入超過が顕著～

2013（平成25）年から5年間における千代田区の人口の社会増減(転入－転出）の状況を世代別にみてみました。2013（平成25）年から2015（平成27)年には20歳代～40歳代前半の転入超過が大きく、子どもや50歳前後の層も転入超過の傾向がみられます。2016（平成28)年から2018（平成30)年においても20代の転入超過は継続しています。一方、子どもや30歳代から40歳代の層の増加幅は縮小傾向となっています。また、60歳代では転出超の傾向がみられるようになっています。

（平成31年住民基本台帳人口移動報告）



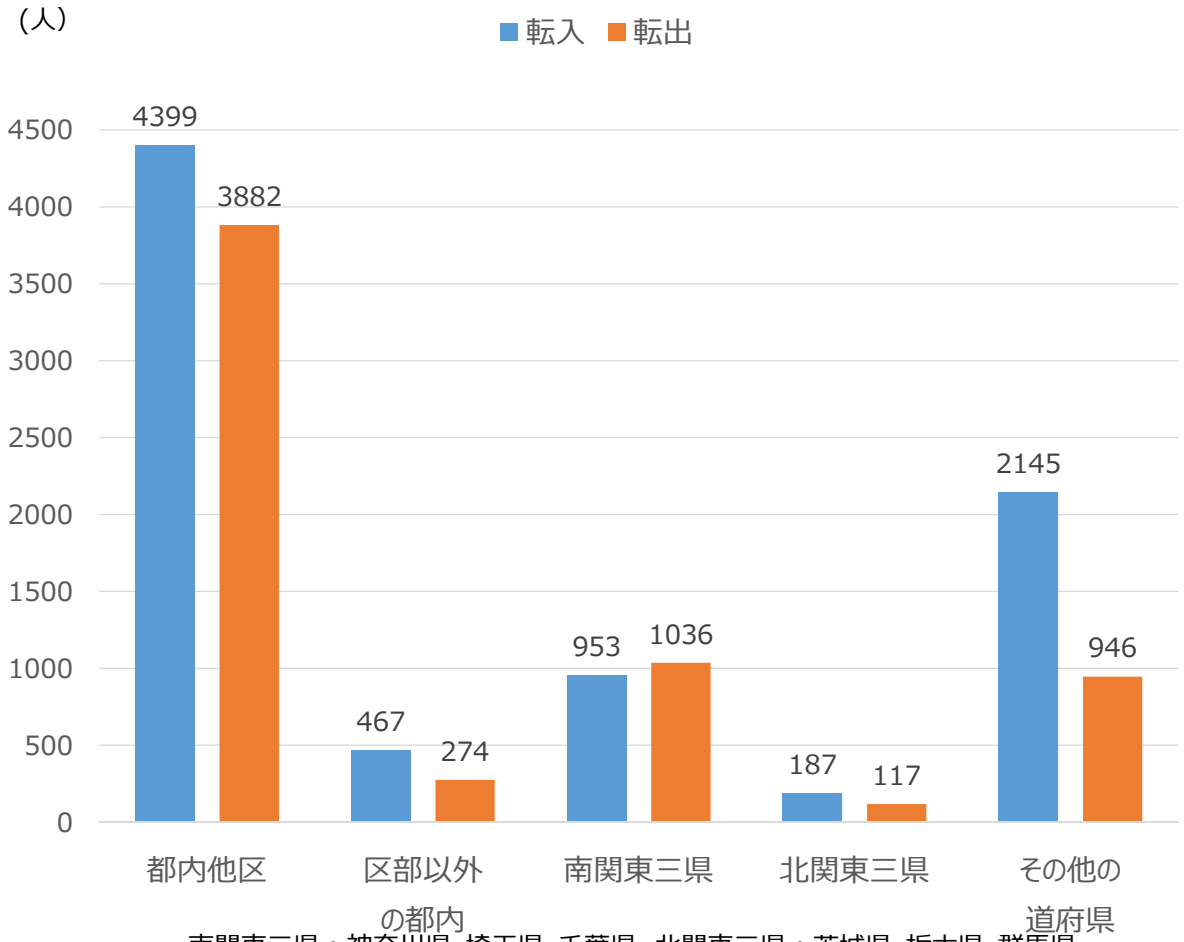


8　転入元・転出先　～首都圏、23区内における転入・転出が多数を占める～

2018（平成30年）の千代田区における転入・転出の状況をみてみると、関東圏からの転入・転出が大半を占めています。区部における転入・転出が5割を超えており、他の22区との出入りが多いことがわかります。また、南関東三県の転入・転出も多くみられます。関東1都6県以外の道府県から転入超過はおよそ1200人となっています。

市区町村でみると、転入・転出ともに都心区及び隣接区が上位を占めています。

● 千代田区における転出入の状況　平成31年住民基本台帳移動報告



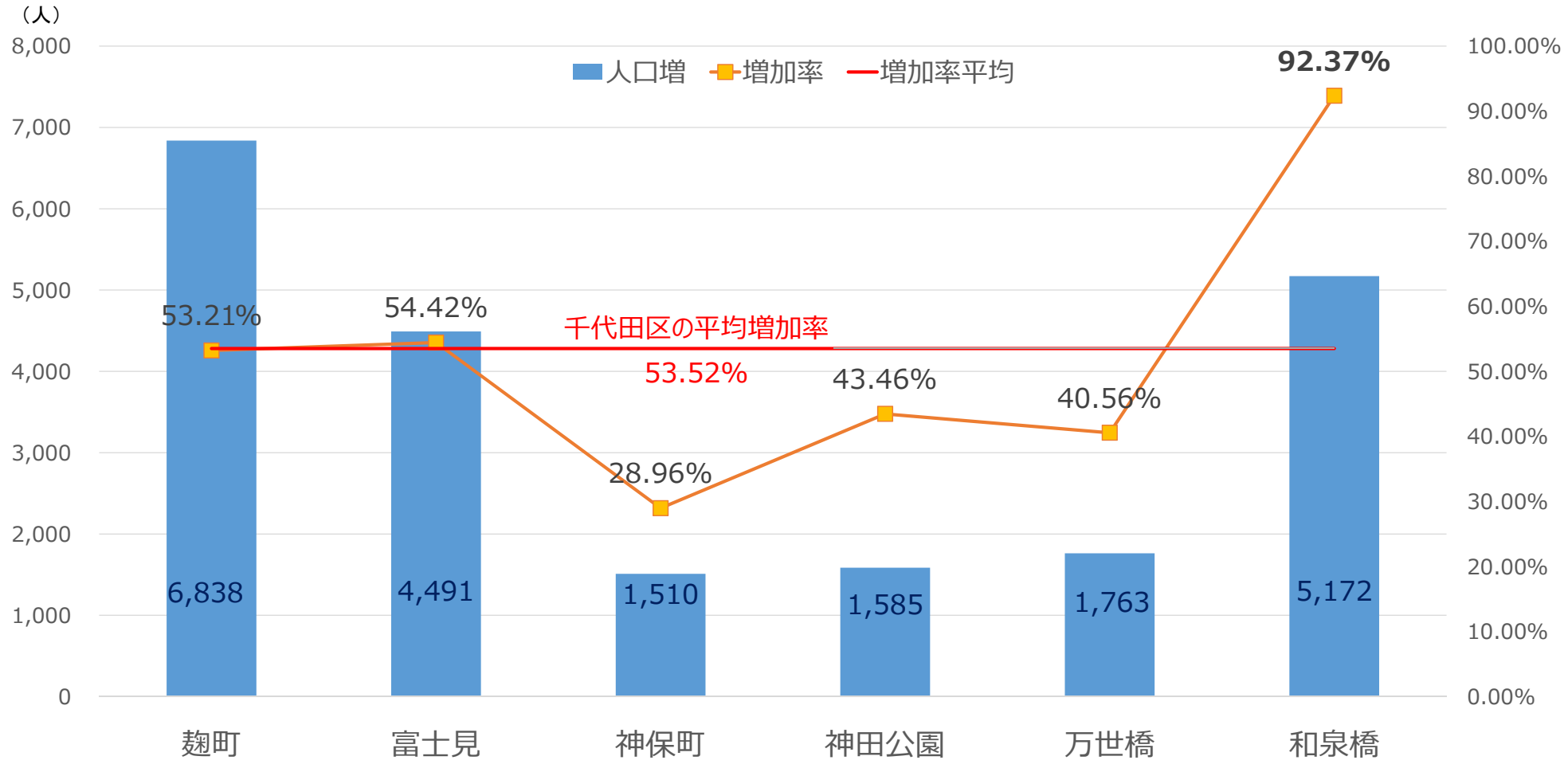
南関東三県：神奈川県・埼玉県・千葉県、北関東三県：茨城県・栃木県・群馬県

	転入元上位10自治体		転出先上位10自治体	
	自治体名	転入者数	自治体名	転出者数
1	港区	465人	新宿区	403人
2	中央区	409人	港区	400人
3	新宿区	398人	文京区	356人
4	文京区	322人	中央区	339人
5	台東区	296人	江東区	242人
6	世田谷区	268人	台東区	215人
7	横浜市	266人	世田谷区	188人
8	江東区	243人	江戸川区	161人
9	渋谷区	211人	横浜市	160人
10	江戸川区	183人	渋谷区	157人

9　人口の出張所地域別増加状況　～和泉橋地域で90%を超える急増～

1998（平成10）年から20年間の住民基本台帳の人口の増加状況を出張所地域別に見てみると、人口の増加数は、麹町出張所地域が最も多く、6,838人の増となっています。一方、増加率は和泉橋出張所地域が最も高く92.37%の増とほぼ2倍になっています。

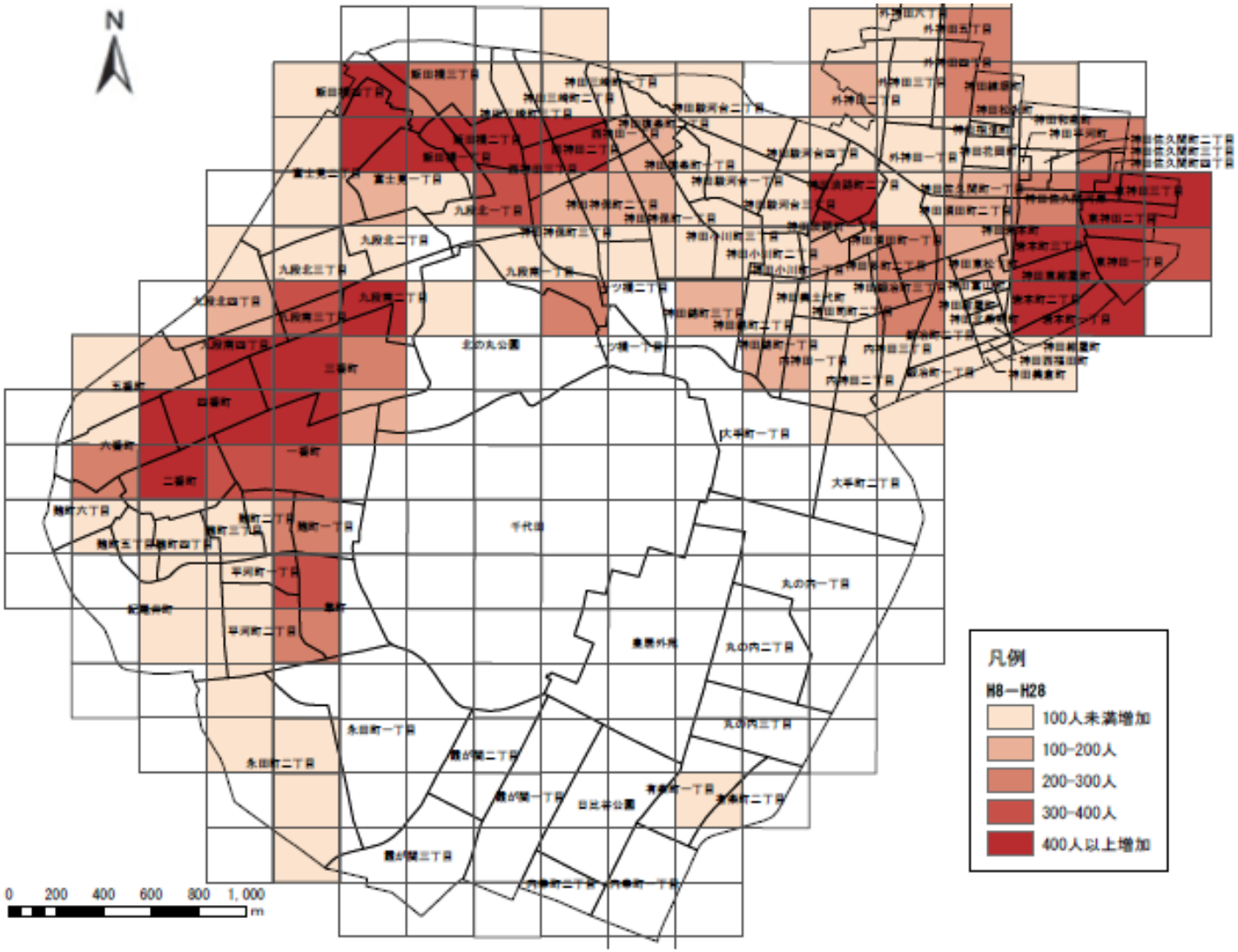
● 出張所地域別人口の増減　千代田区行政基礎資料集　平成10年1月現在と平成30年1月現在の比較



10　人口の地区別増加状況　～大規模開発がない東神田地域でも人口急増～

1996（平成8）年から2016(平成28）年の人口増減を250mメッシュで表示しました。400人以上増加した区域は、番町地域、富士見地域、和泉橋地域に多いほか、市街地再開発事業により住機能を誘導した、西神田、神田淡路町にもみられます。東神田周辺では、市街地再開発等による大規模な住機能の誘導がない中で、急激に人口が増加しています。

● 地域別人口の増減（メッシュ分析）　平成8年～平成28年で比較　住民基本台帳データから千代田区で作成



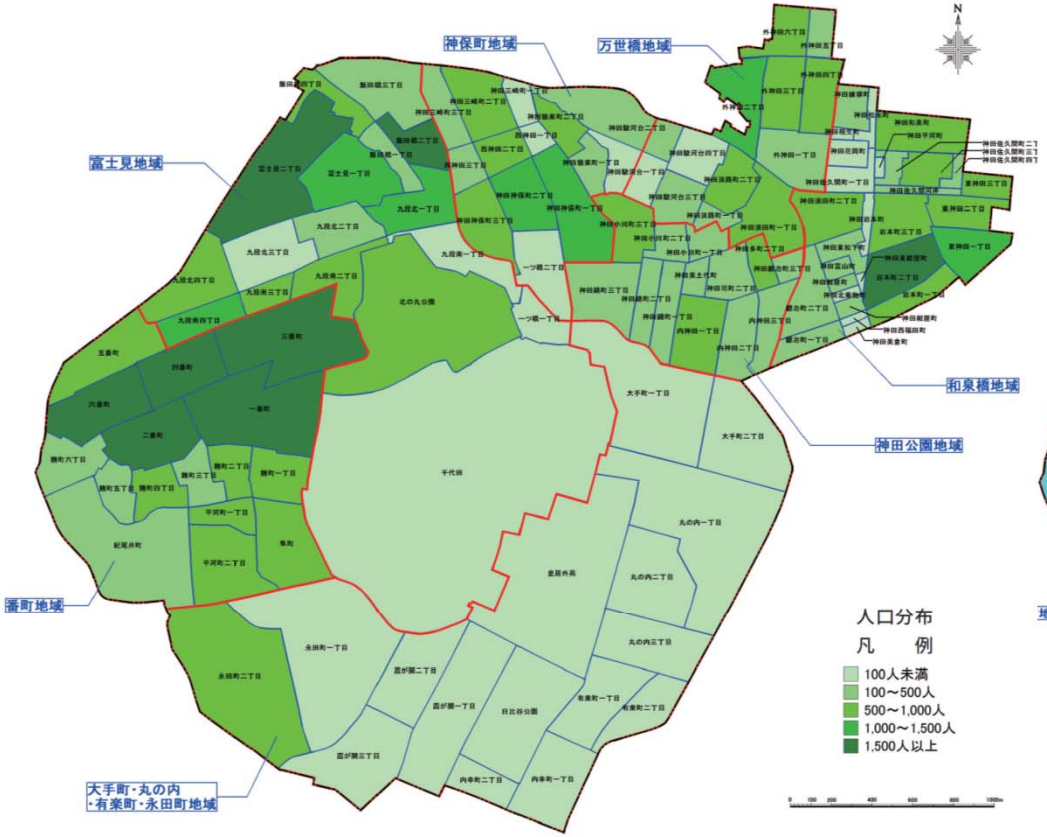
資料：住民基本台帳

11　人口の町丁別分布状況　～千代田区東部にもみられる人口集積地域～

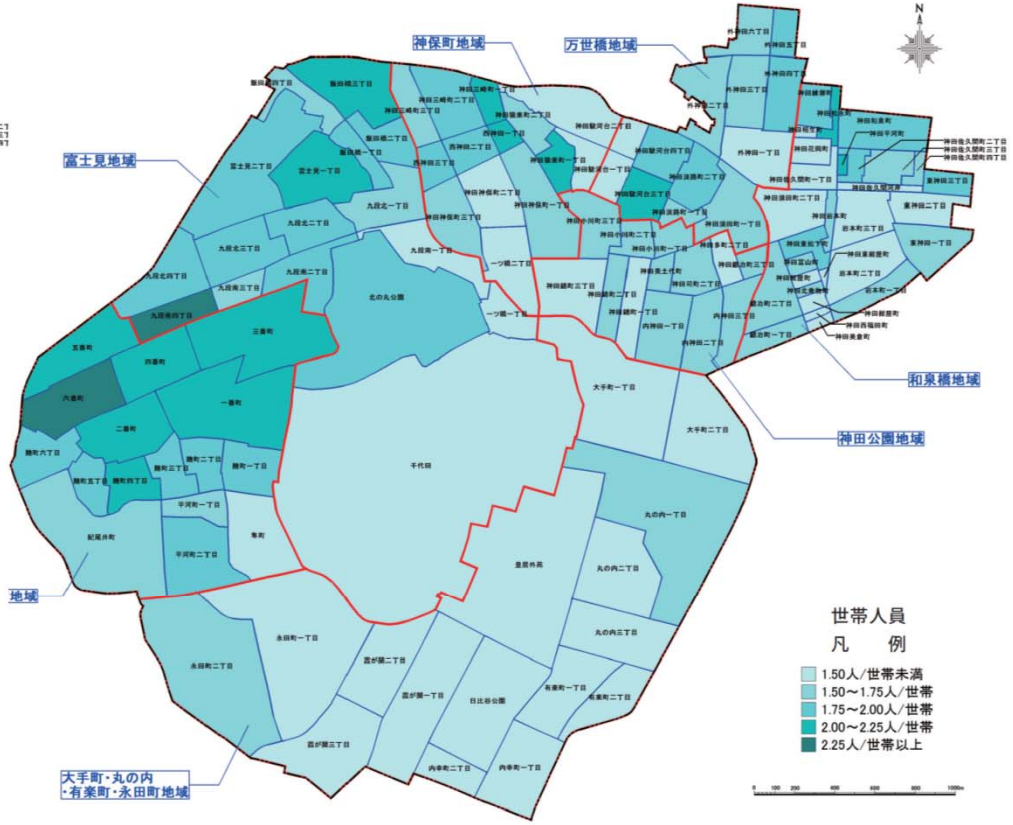
町丁別の人口分布では、番町地域に１５００人以上の町丁目がまとまって分布しています。また、千代田区東部の岩本町・東神田では、面積が狭いにもかかわらず、１０００人、１５００人を超えている町丁目も散見されます。

また、一世帯当たり人員の状況でも、番町地域に2.00人／世帯の町丁目がまとまって分布し、千代田区東部の神田エリアには1.50人／世帯未満の町丁が多くなっています。

● 町丁別人口分布　千代田の土地利用2018



● 町丁別世帯人員　千代田の土地利用2018

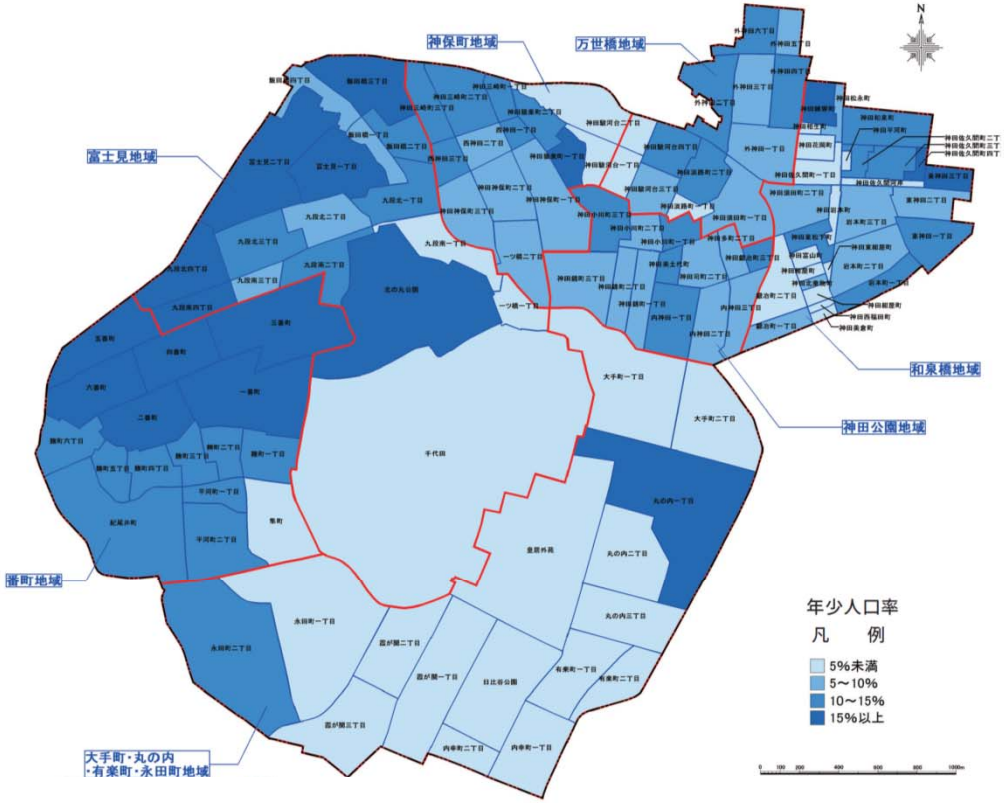


12　町丁別年少人口率と高齢化率の分布

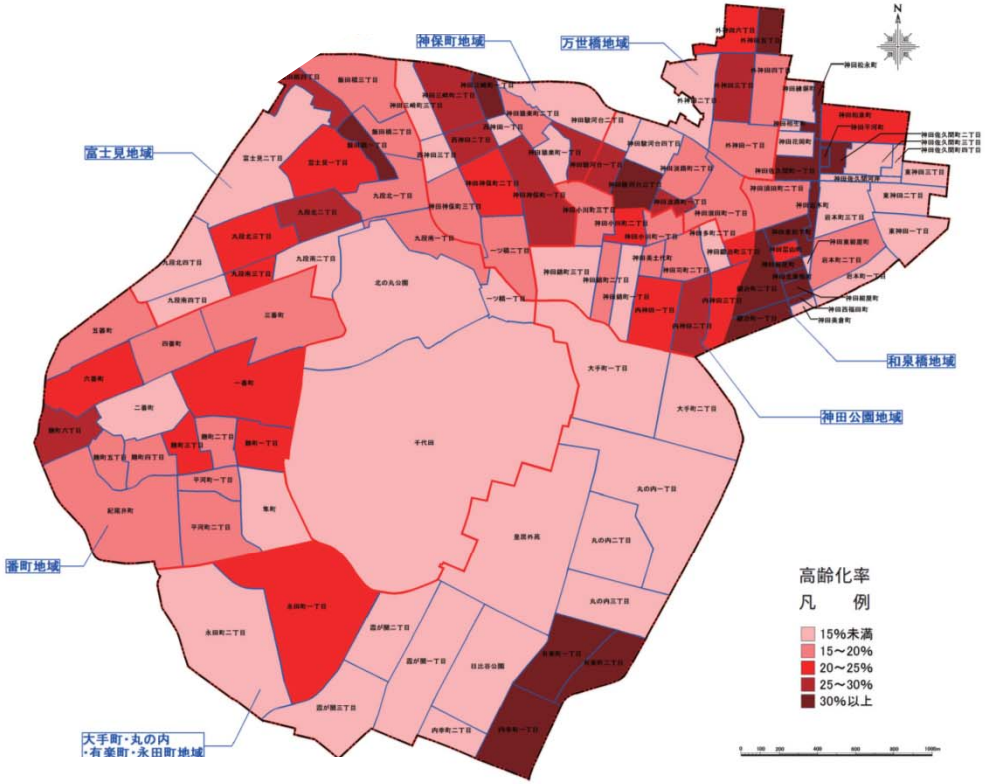
人口の集まる番町地域、富士見地域に年少人口率１５％以上の町丁目が多くみられます。また、和泉橋地域の神田駅東部、神田駿河台には年少人口5%未満の町丁も散見されます。

一方、高齢化率をみると、和泉橋地域の神田駅東部の町丁に高齢化率30%以上の町丁目がまとまっています。神田地域では高齢化率が高い地域、１５％未満の地域のばらつきがみられます。

● 町丁別年少人口率　千代田の土地利用2018



● 町丁別高齢化率　千代田の土地利用2018

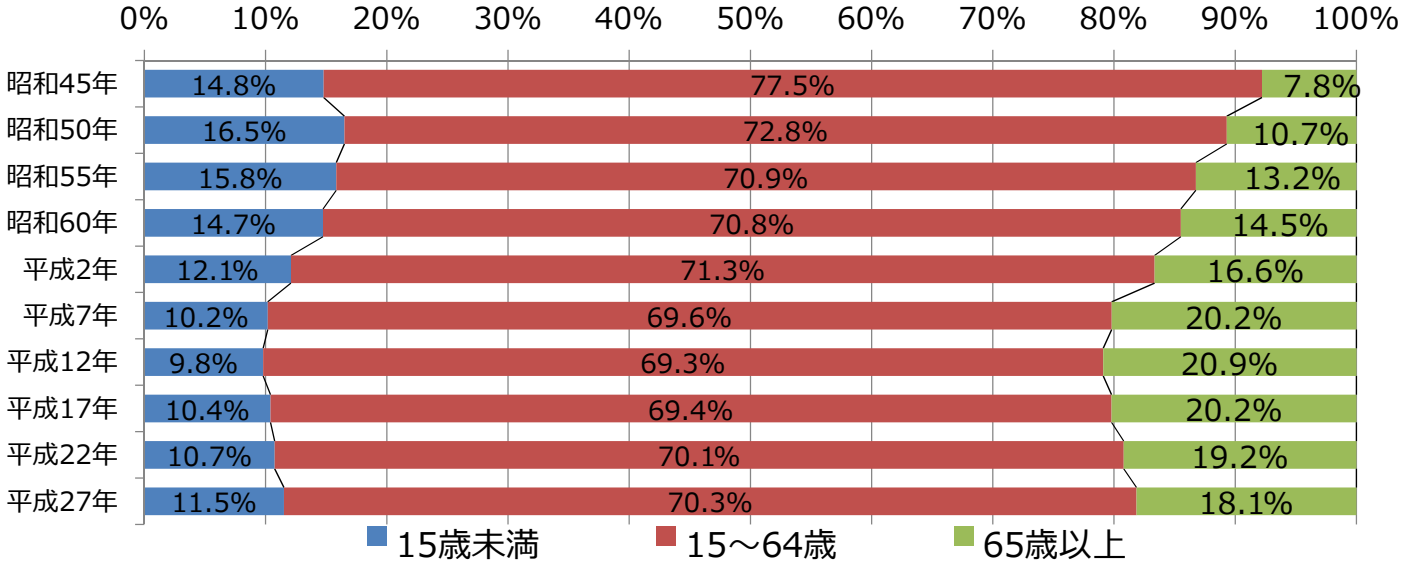


13　高齢者・年少者人口の動向と推計　～後期高齢者の人口率は増加傾向の見込み～

高齢化率は2000（平成12）年の20.9%をピークにいったん横ばいから微減となっています。今後の推計でも、高齢化率は概ね横ばいのまま推移し、2065年には21.1%になると推計されています。

● 年齢別人口動向　平成27年国勢調査

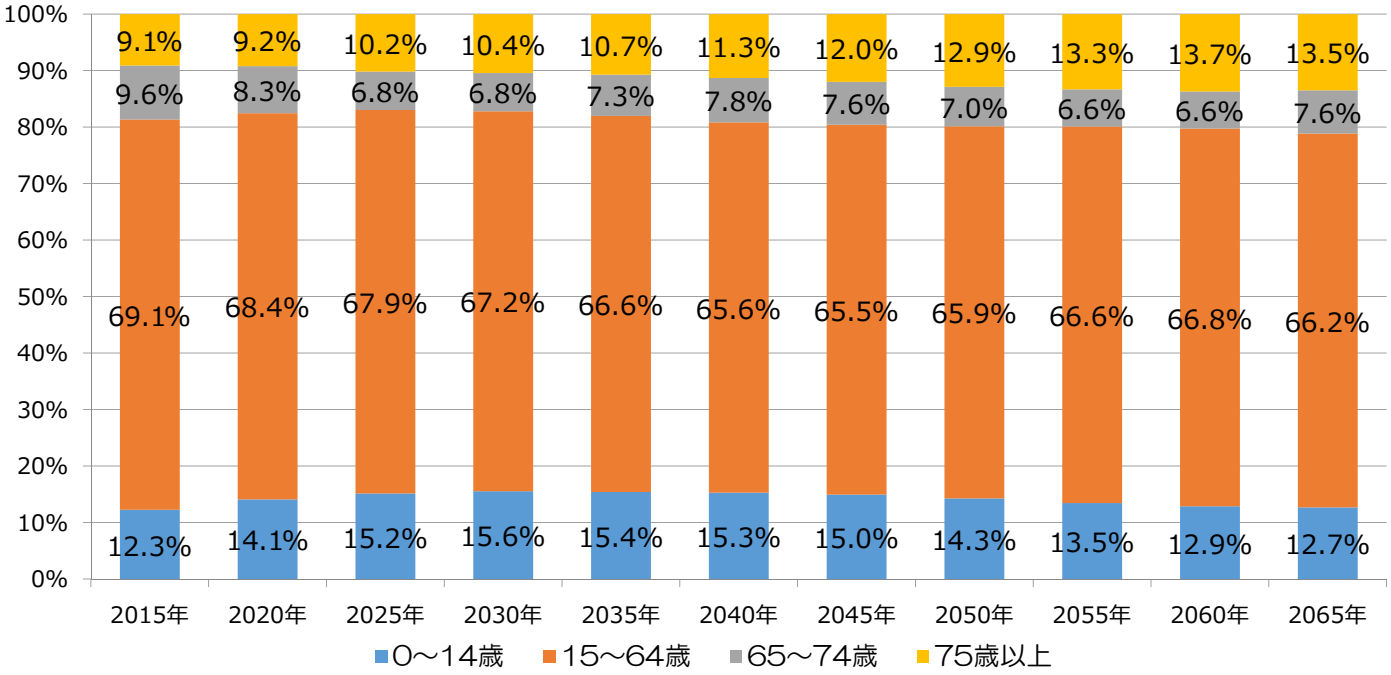
65歳以上の高齢化率は2000（平成12）年にいったんピークを迎え、微減が続いています。



● 年齢別人口動向の推計

平成３０年千代田区人口推計

2065年には65歳以上の高齢化率21.1%、75歳以上の後期高齢者の人口率は、13.5%になると推計されています。

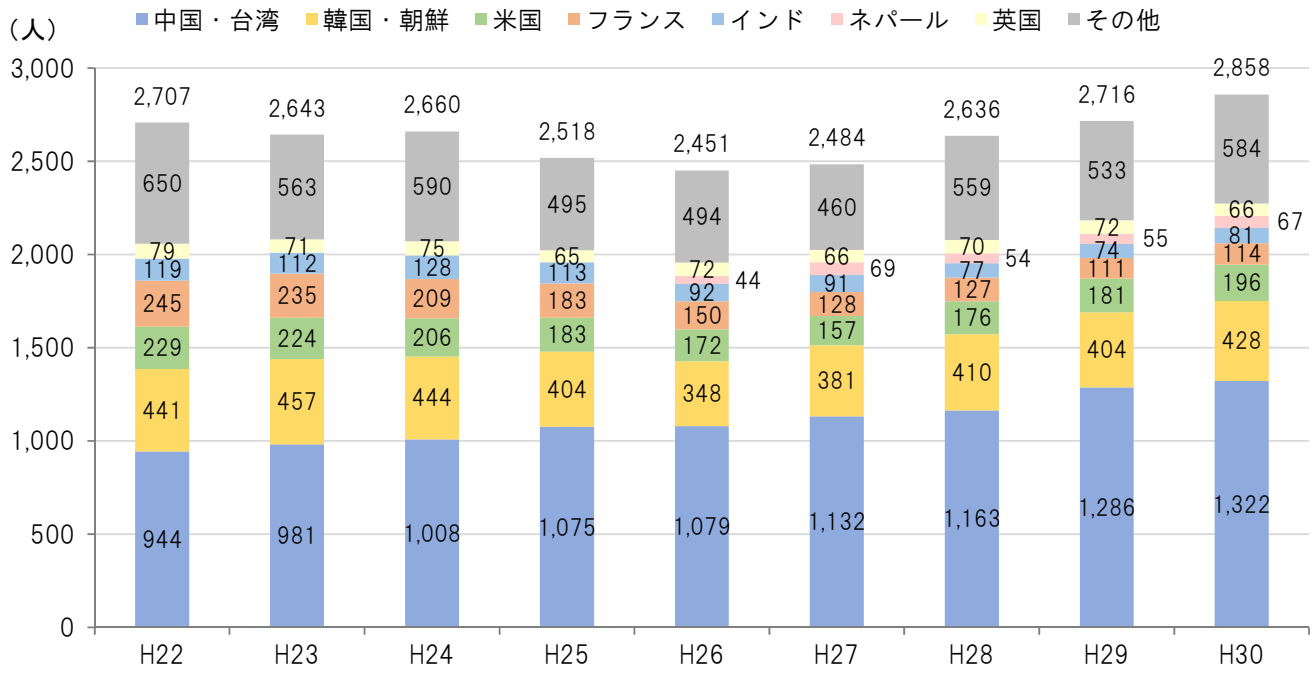


※推計には外国人は含まず

14　外国人人口の動向　～千代田区では微増も、区部では大幅な増加が続く～

外国人の人口は、ここ10年間ほど2000人台半ばで推移しています。およそ半数を中国・台湾が占め、韓国・朝鮮と続いています。20年の期間でみると、千代田区でも外国人は倍増、中央区では3倍増を超えています。区部の増加率は80%を超え、およそ19万人増えており、これは台東区の人口に匹敵します。

● 千代田区の外国人人口の推移



● 都心区における外国人動向比較

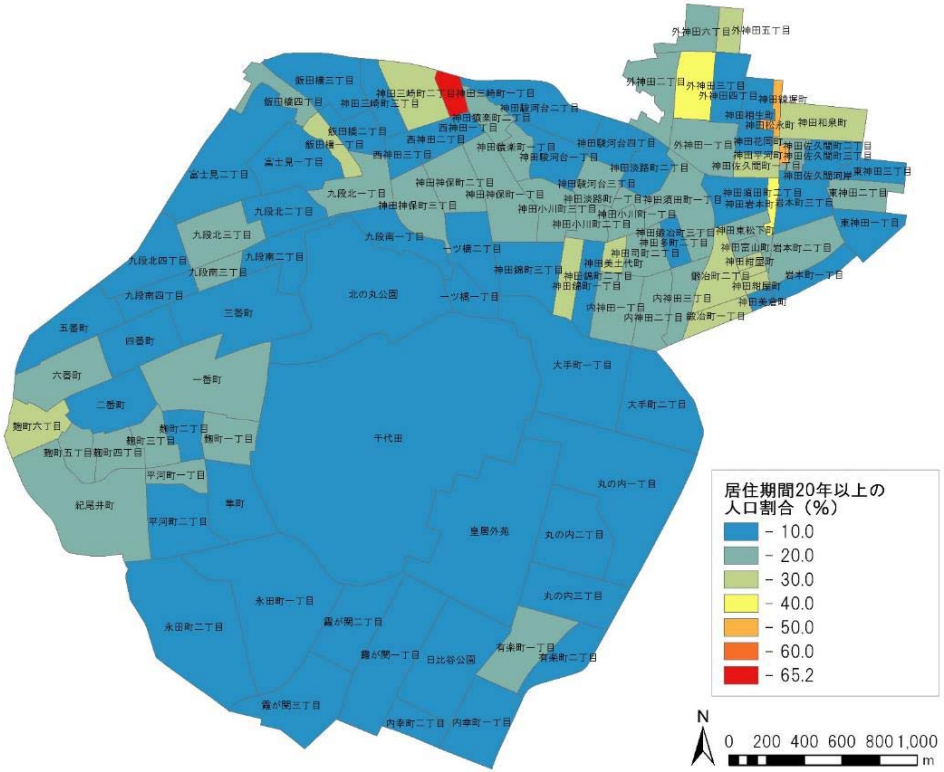
	1997（平成9）年	2002（平成14）年	2007（平成19）年	2012（平成24）年	2017（平成29）年	20年間の増減率
千代田区	1,317	1,821	2,632	2,550	2,665	102.4%
中央区	1,344	2,429	4,225	4,947	6,176	359.5%
港区	13,252	16,494	21,806	18,853	18,992	43.3%
区部計	222,772	287,479	324,294	327,266	410,650	84.3%

15　居住期間別人口の割合　～神田地域に居住期間の長い町丁目が存在～

2015（平成27）年国勢調査の町丁目別の居住期間では、神田地域で居住期間20年以上の人口の割合が10%を超える町丁目が比較的多く、番町地域においても10%を超える町丁目がみられます。

特に、外神田、神田和泉町で20年以上の居住割合が高くなっています。一方で、官舎居住人口の割合が高い町丁目や、調査時期直前に竣工した集合住宅がある富士見二丁目や神田淡路町二丁目で、5年未満居住人口の割合が高くなっています。

町丁目別居住期間20年以上の人口割合　平成27年国勢踏査



居住期間20年以上の人口割合の高い町丁目
（300人以上の町丁目）　平成27年国勢踏査

町丁目	割合	割合（生まれてからずっと）	20年以上居住人数（人）	20年以上居住+出生以来ずっと居住含む人数（人）
外神田三丁目	30.2%	46.3%	175	268
外神田五丁目	28.5%	46.8%	95	156
神田三崎町二丁目	22.9%	36.4%	114	181
神田和泉町	20.8%	33.0%	140	222
飯田橋四丁目	19.8%	25.5%	91	117

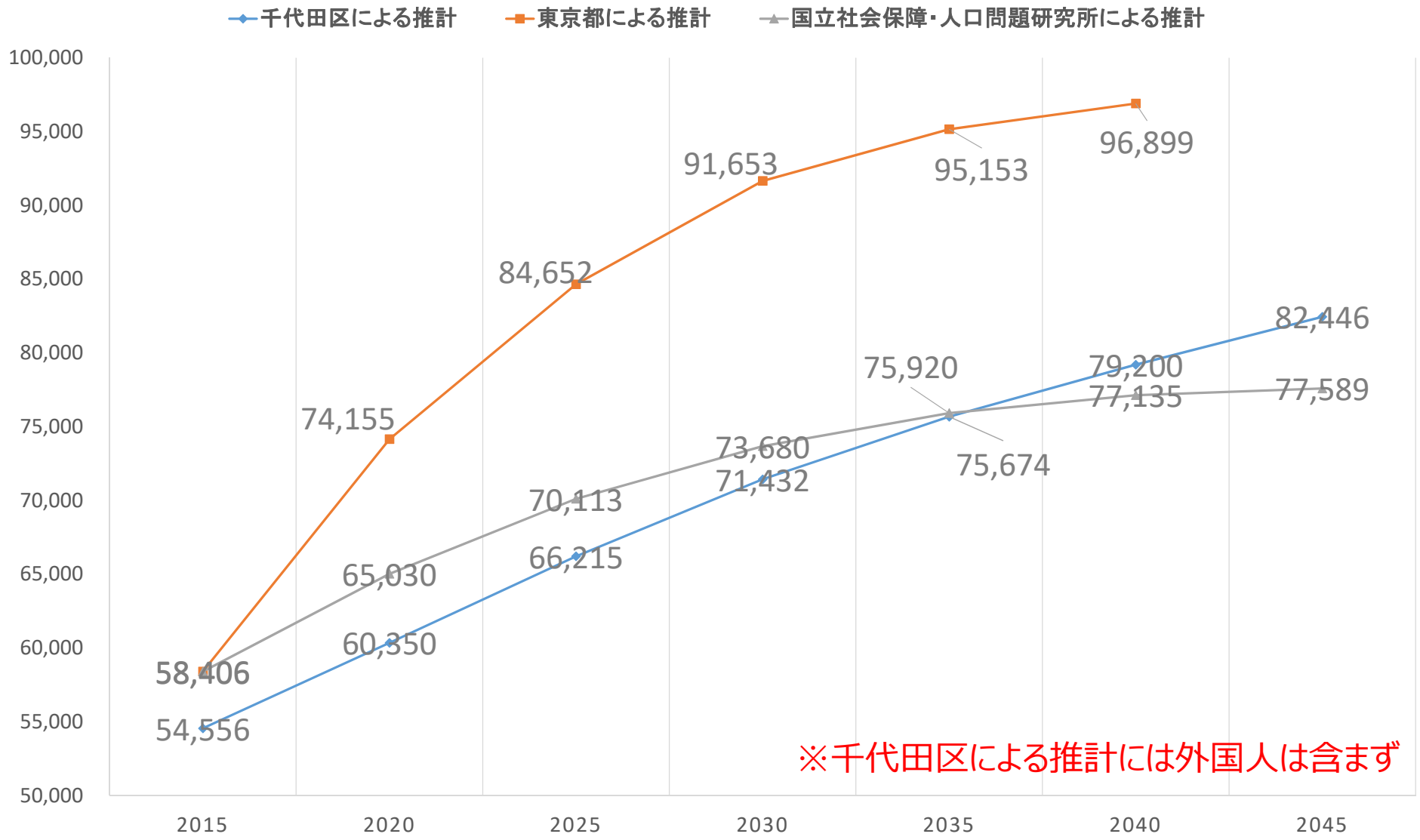
居住期間5年未満人口割合の高い町丁目
（300人以上の町丁目）　平成27年国勢踏査

町丁目	割合	5年未満居住人数（人）
隼町	74.3%	350
北の丸公園	51.8%	376
神田淡路町二丁目	46.4%	489
富士見二丁目	38.9%	1246
麹町四丁目	38.5%	233

16　今後の人口推計　～今後中期的に人口は増加傾向で推移～

千代田区、東京都、国、いずれの推計においても、引き続き千代田区の人口は増加するものと推定をされています。

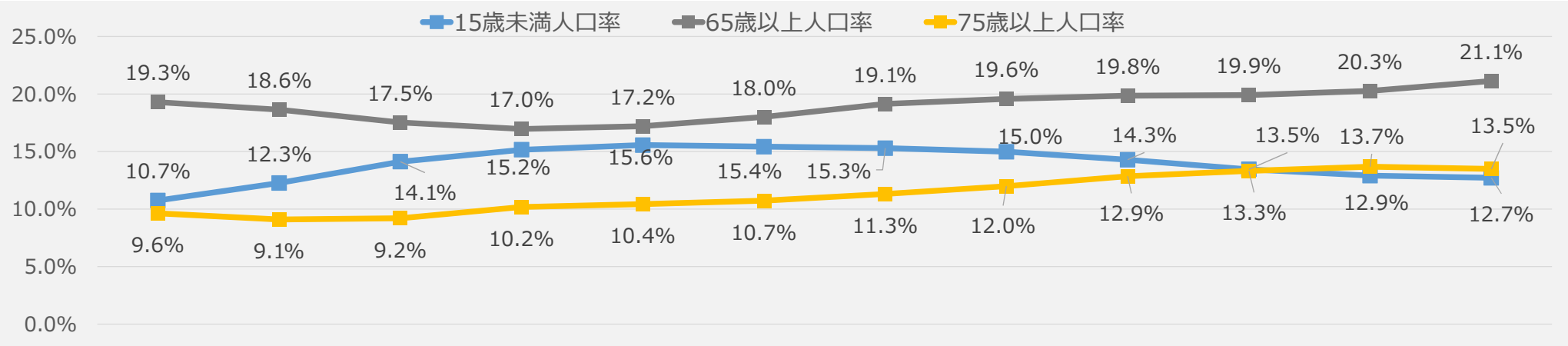
● 千代田区、東京都、国による長期人口推計

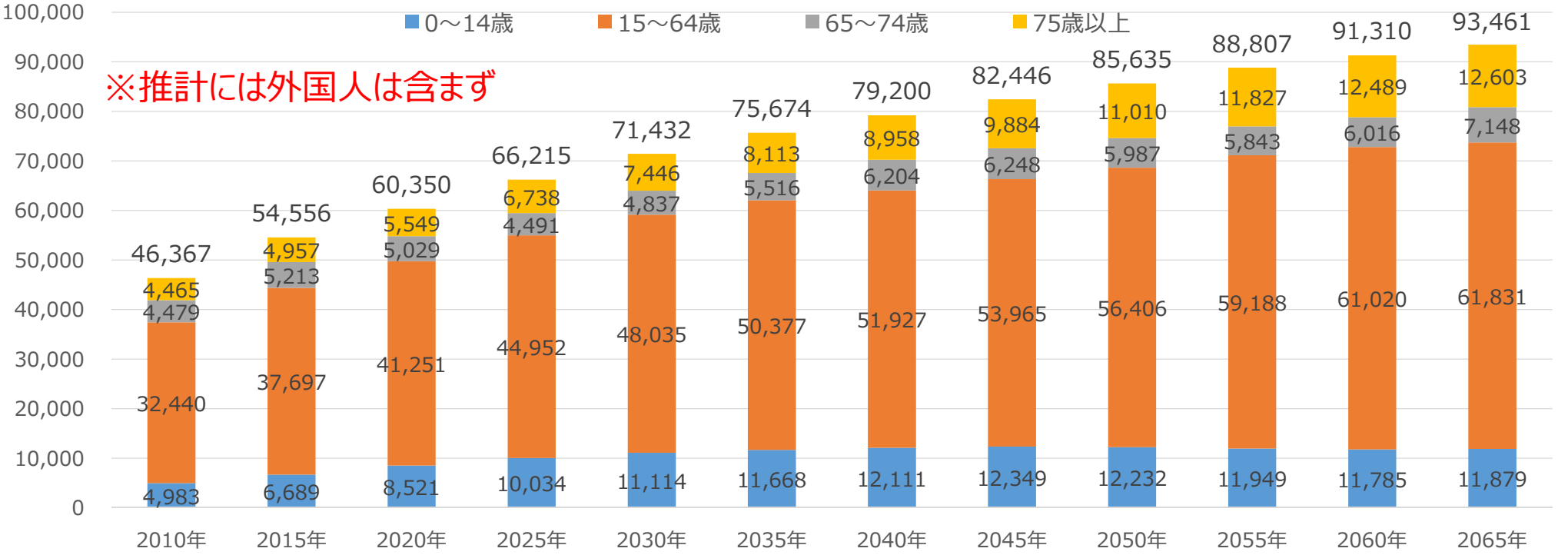


17　今後の人口推計（年齢別）～2065年には高齢者人口は2万人、4.7人に1人が65歳以上に～

「千代田区人口推計」による推計では、人口は増加し続け2065年に93,461人となる見込みです。65歳以上の人口率は横ばいで推移し、2065年には21.1%、人数にしておよそ2万人にのぼると推計されています。

● 年齢別人口推計　平成30年千代田区人口推計

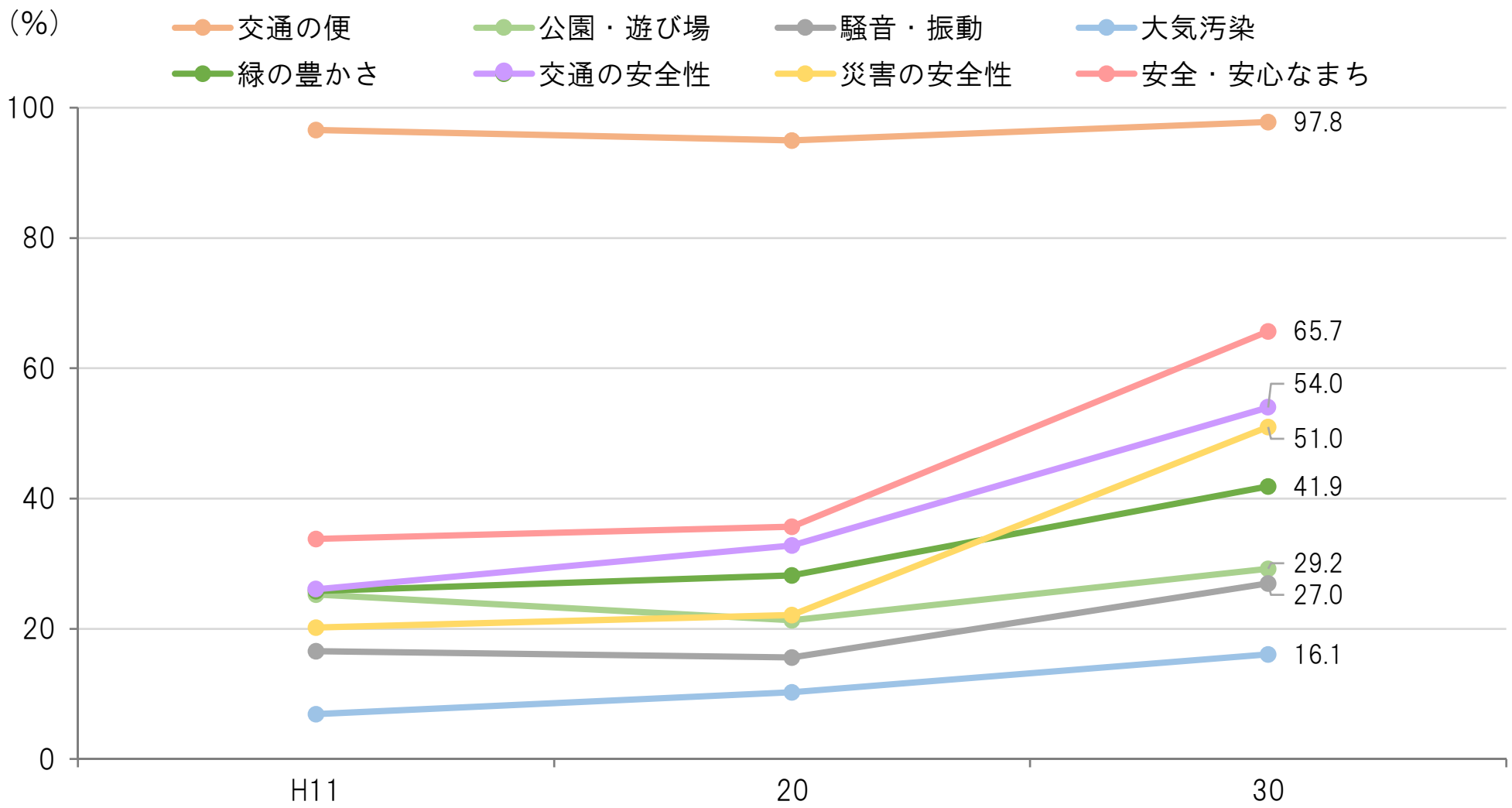




18　居住者による生活環境評価　～評価水準は継続して向上～

およそ20年間における世論調査の生活環境評価の状況をみてみると、「交通の便」は特に高水準を維持しています。その他の全ての指標でも評価が上昇していますが、「大気汚染」「騒音・振動」「公園・遊び場」は比較的低水準で推移しています。

● 生活環境評価の推移　平成30年千代田区民世論調査



※自宅周辺の生活環境を５段階評価（良い、やや良い、普通、やや悪い、悪い）して、「良い」「やや良い」と評価した人の割合を示す

19　居住者による生活環境評価　（地区別・世代別評価）

居住者評価を地区別でみてみると、麹町地区が多くの指標が最高水準にある一方、神田公園地区や和泉橋地区においては、評価が低い傾向にあります。世代別では、「公園・遊び場」「交通の安全性」などで評価に差が生じています。

● 地域別・世代別生活環境評価　平成30年千代田区民世論調査

		H30生活環境評価（%）			
		交通の便	公園・遊び場	騒音・振動	大気汚染
千代田区		97.8	29.2	27.0	16.1
地区別	麹町地区	97.4	34.7	39.8	26.0
	富士見地区	98.6	31.2	27.7	11.4
	神保町地区	98.5	23.5	17.2	12.5
	神田公園地区	98.3	22.9	17.2	9.8
	万世橋地区	99.1	26.5	15.6	9.8
	和泉橋地区	96.6	27.4	22.2	13.7
世代別	子育て世代（18歳-40代）	98.0	25.9	28.5	16.3
	高齢者世代（65歳-）	96.7	32.2	23.5	14.2

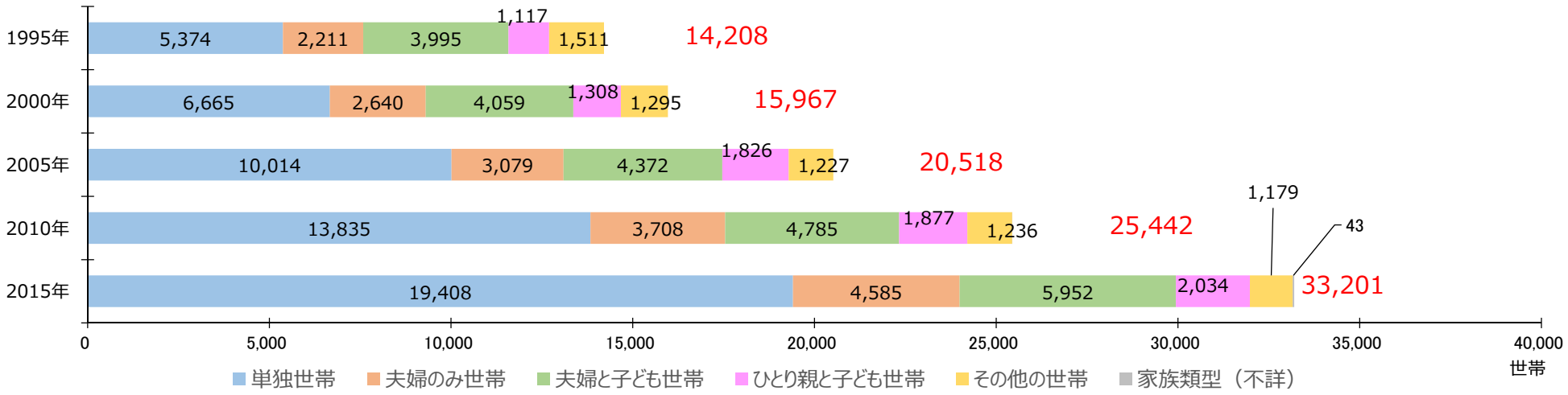
		緑の豊かさ	交通の安全性	災害時の安全性	安全・安心なまち
千代田区		41.9	54.0	51.0	65.7
地区別	麹町地区	61.1	63.9	67.2	80.7
	富士見地区	61.7	62.5	51.1	69.5
	神保町地区	32.1	46.9	42.2	60.2
	神田公園地区	23.0	47.5	41.0	58.2
	万世橋地区	22.5	52.0	47.0	53.9
	和泉橋地区	13.7	35.0	31.7	47.1
世代別	子育て世代（18歳-40代）	41.7	52.3	50.9	66.2
	高齢者世代（65歳-）	41.0	59.0	51.4	62.3

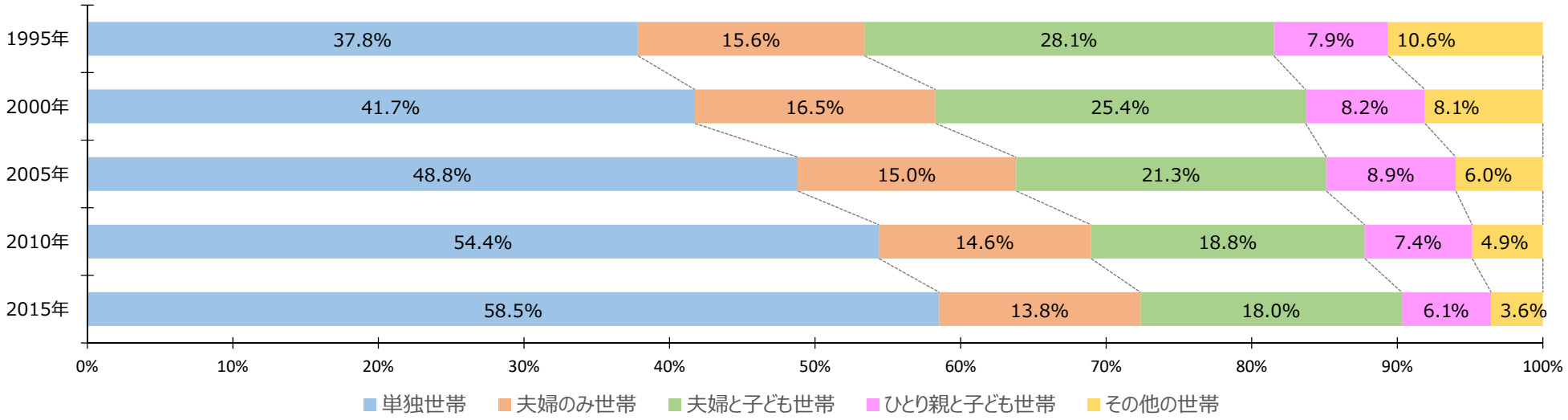
※自宅周辺の生活環境を５段階評価（良い、やや良い、普通、やや悪い、悪い）して、「良い」「やや良い」と評価した人の割合を示す

1　家族別世帯の動向　～急増する単身世帯、ファミリー世帯や高齢者世帯も増加傾向に～

この20年間、世帯数は一貫して増加しています。特に単独世帯は、2015(平成27）年の国勢調査で2万世帯に迫り、全世帯数の約6割を占めています。夫婦と子ども世帯は、1995(平成7）年から約2,000世帯増え、約4,600世帯となっていますが、構成比は微減傾向となっています。

● 家族類型別世帯数　平成27年国勢調査

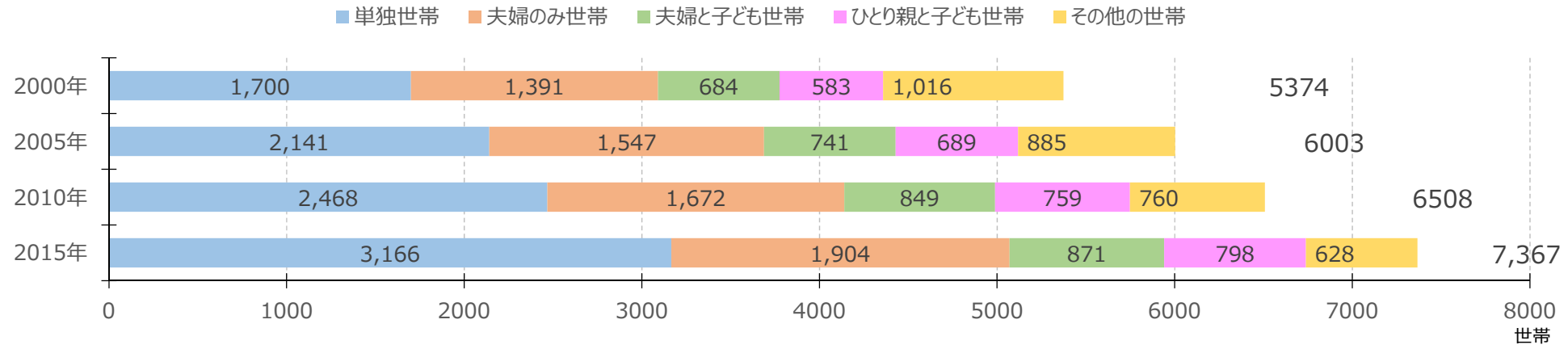




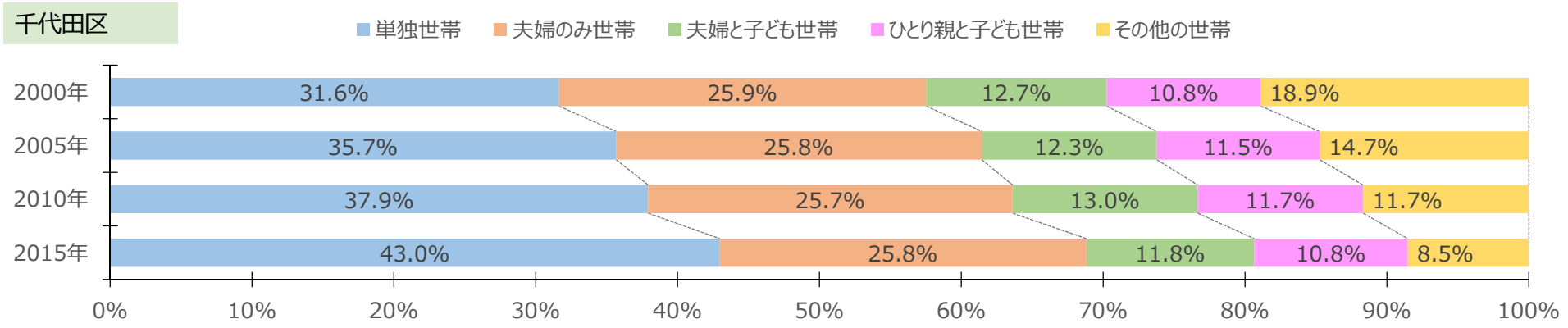
2　高齢者がいる世帯の推移　～高齢者単身世帯の増加傾向が続く～

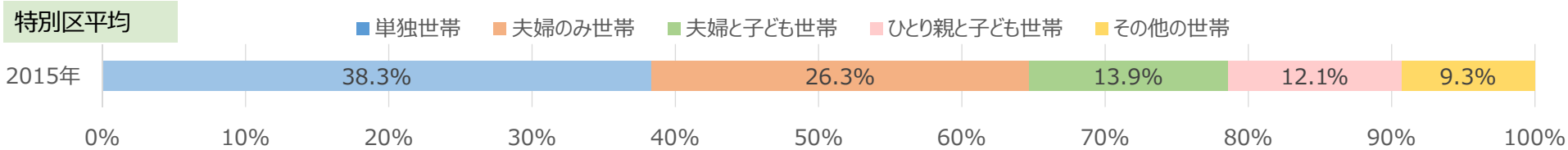
2015（平成27）年国勢調査では、65歳以上の高齢者がいる世帯は7,367世帯あり、一般世帯（33,201世帯）の22.2%を占めています。2000（平成12）年と比較して、約2,000世帯増加しており、そのうち単身世帯が約1500世帯を占めています。高齢者のいる世帯のうち単身世帯が占める割合も年々高まり、2015年には、43%となっています。これは、特別区の平均38.3%より4.7ポイントも高くなっています。

● 世帯類型別65歳以上の高齢者のいる一般世帯数の推移　平成27年国勢調査



● 世帯類型別65歳以上の高齢者のいる一般世帯の割合の推移　平成27年国勢調査

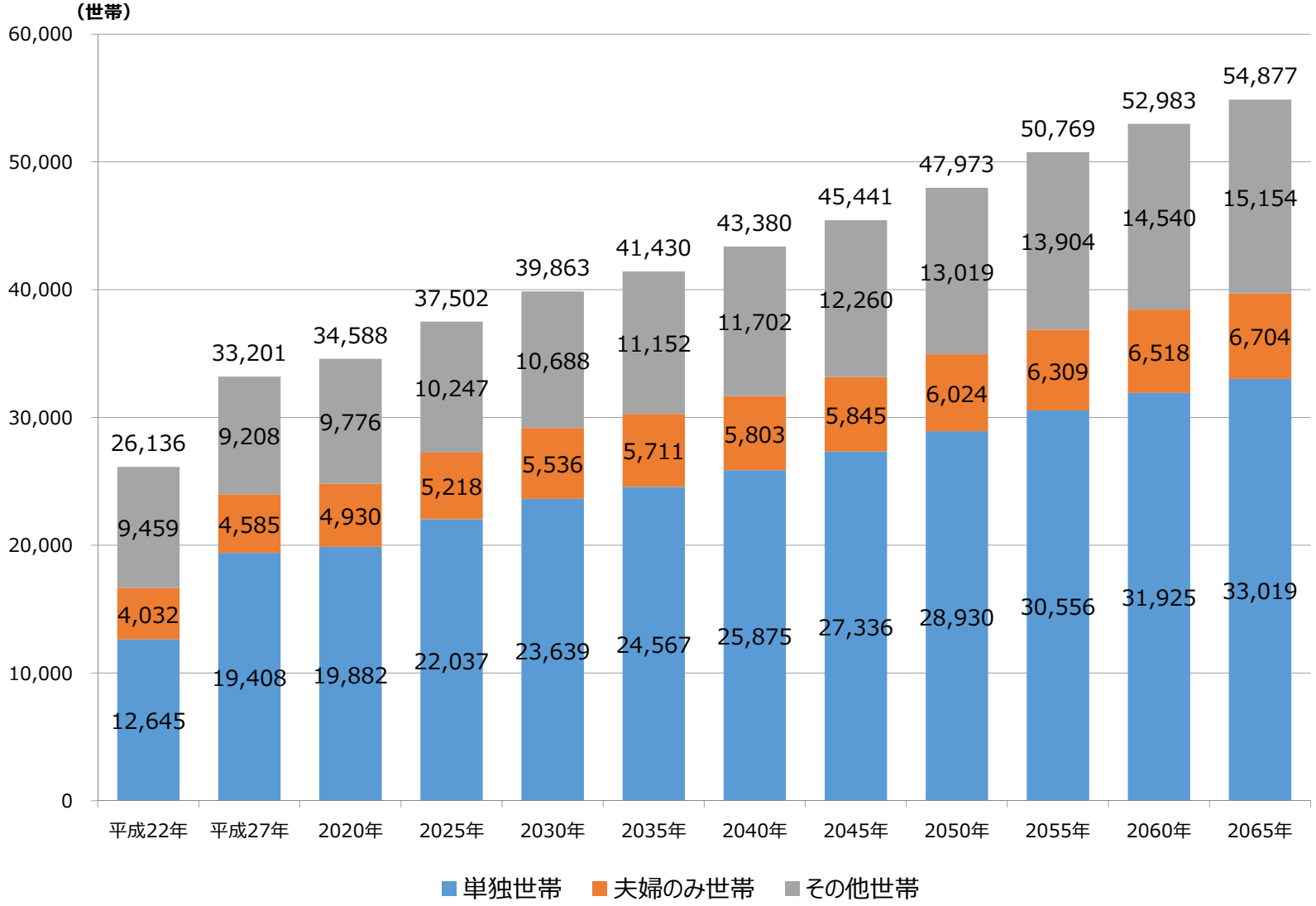




3　今後の世帯数推計　～今後の人口推計と同様に増加傾向～

千代田区の世帯数は人口の増加傾向と同様に2065年までに約5万5千世帯に増加すると推計され、そのうち単独世帯がおよそ6割を占める見込みです。

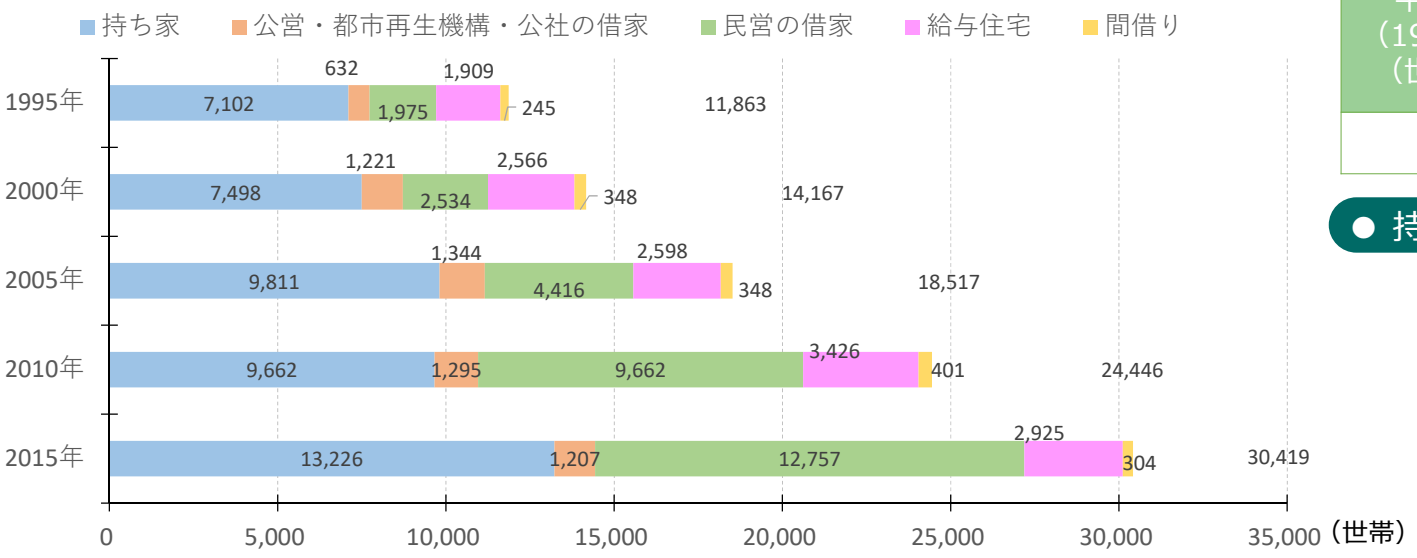
● 世帯数の推計　平成30年千代田区人口推計

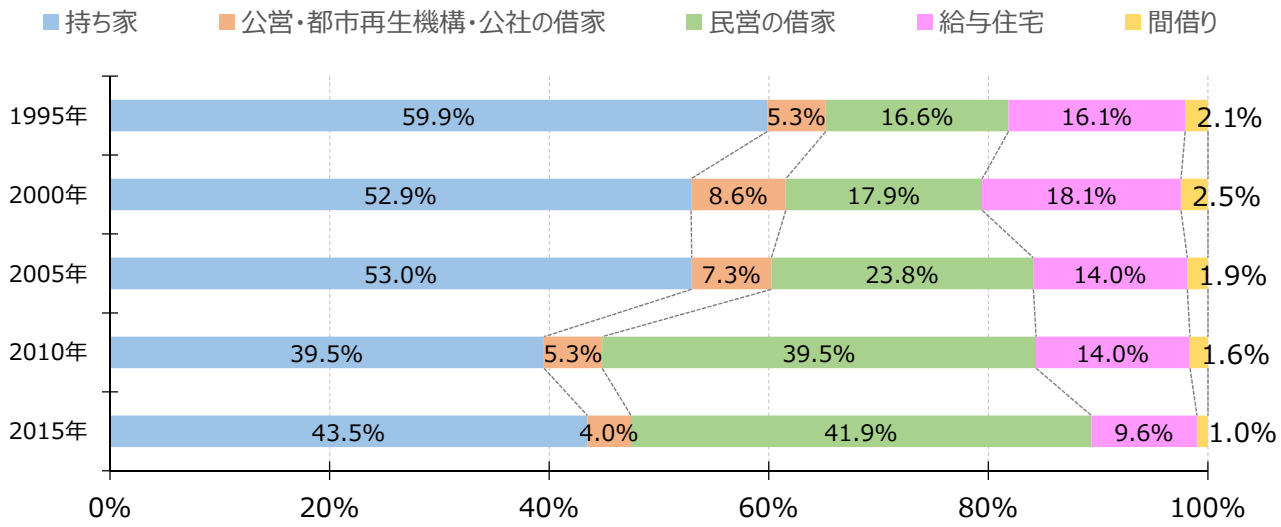


4　住まいの所有と世帯　～「持ち家」と「民営借家」世帯数がともに約4割、「民営借家」の増加率高く～

1997（平成9）年から2015（平成27）年の間に「持ち家」に住む世帯は約6,100世帯の増でおよそ1.9倍、「民営借家」は約11,000世帯の増でおよそ6.5倍の増となっています。
持ち家比率は、特別区の平均とほぼ同じで43.5%、全国平均と比べて20%ほど低くなっています。

● 住宅の所有別の世帯推移　平成27年国勢調査





●持ち家に住む世帯の推移　平成27年国勢調査

平成7（1995)年（世帯）	平成27（2015)年（世帯）	増減（世帯）	増減率
7,102	13,226	6,124	86.2%

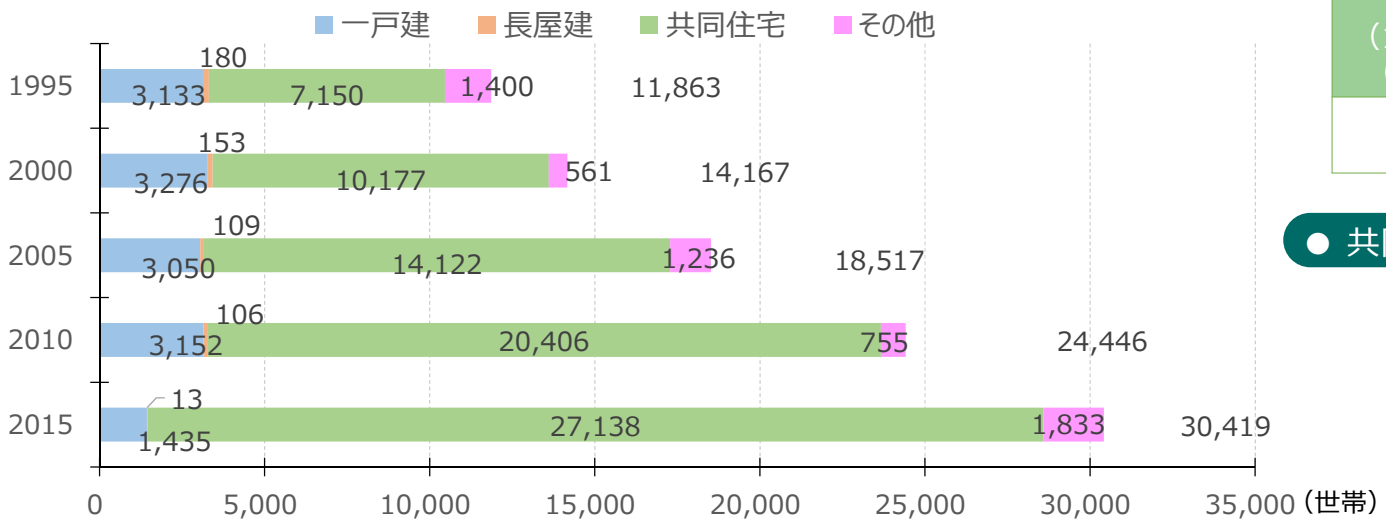
● 持ち家に住む世帯の割合比較　平成27年国勢調査

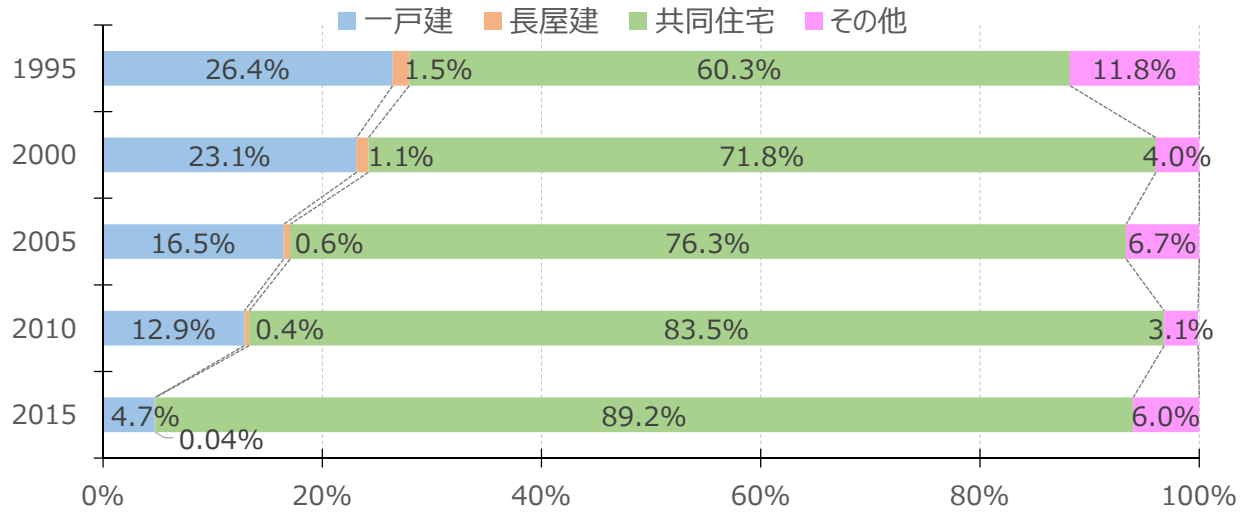
	区	割合
1	葛　飾　区	54.3%
2	台　東　区	50.9%
3	荒　川　区	50.7%
4	足　立　区	50.3%
5	世 田 谷 区	49.8%
15	千 代 田 区	43.5%
19	渋　谷　区	41.8%
20	北　　区	41.0%
21	新　宿　区	35.5%
22	豊　島　区	32.4%
23	中　野　区	32.3%
特 別 区 平 均		45.1%
全　国　平　均		62.3%

5　住まいの建て方と世帯　～「共同住宅」居住世帯は9割に迫り、特別区平均を大きく上回る～

共同住宅に住む世帯数、割合は年々増加しています。1995（平成７）年からの20年間で、およそ2万世帯、率にして30%以上増加しています。23区の中では都心三区いずれも、約90%が共同住宅に住んでいます。全国の平均42.7%、特別区の平均73.4%を大きく上回っています。一方で、一戸建てに住む世帯はこの20年で半減しました。

● 住宅の建て方別の世帯の推移　平成27年国勢調査





● 一戸建て住宅に住む世帯の推移　平成27年国勢調査

平成7（1995)年（世帯）	平成27（2015)年（世帯）	増減（世帯）	増減率
3,133	1,435	△1,689	△54.2%

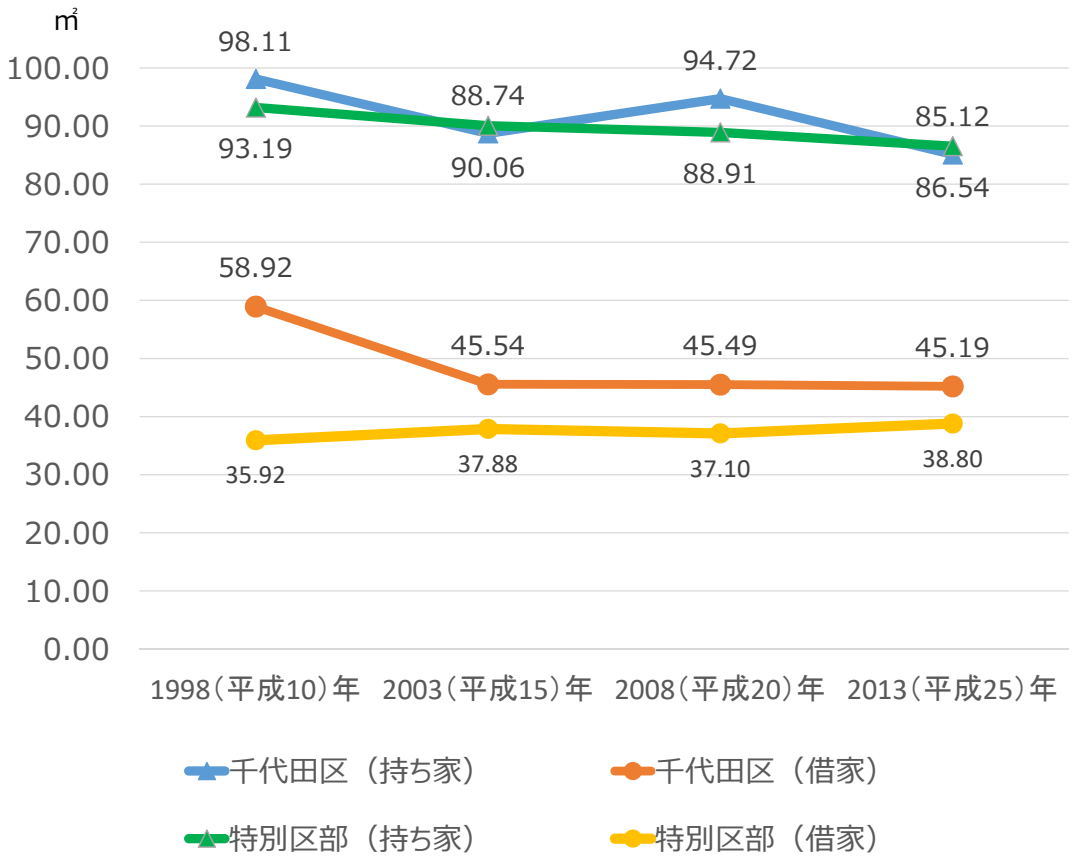
● 共同住宅に住む世帯の割合比較　平成27年国勢調査

	区	割合
1	中央区	90.0%
2	港区	89.9%
3	千代田区	89.2%
4	江東区	86.2%
5	新宿区	85.3%
19	江戸川区	67.4%
20	世田谷区	66.8%
21	足立区	66.1%
22	練馬区	64.3%
23	葛飾区	60.5%
特 別 区 平 均		73.4%
全　国　平　均		42.7%

6　住まいの規模　～1住宅当たりの床面積、「持ち家」は約85㎡、「借家」は約45㎡～

「持ち家」の1住宅当たり床面積は、ほぼ特別区の平均と同程度で約85㎡、借家は特別区平均を約6.4㎡上回り約45㎡、23区では港区についで2番目に広くなっています。

● 1住宅当たり床面積の推移　平成25年住宅土地統計調査



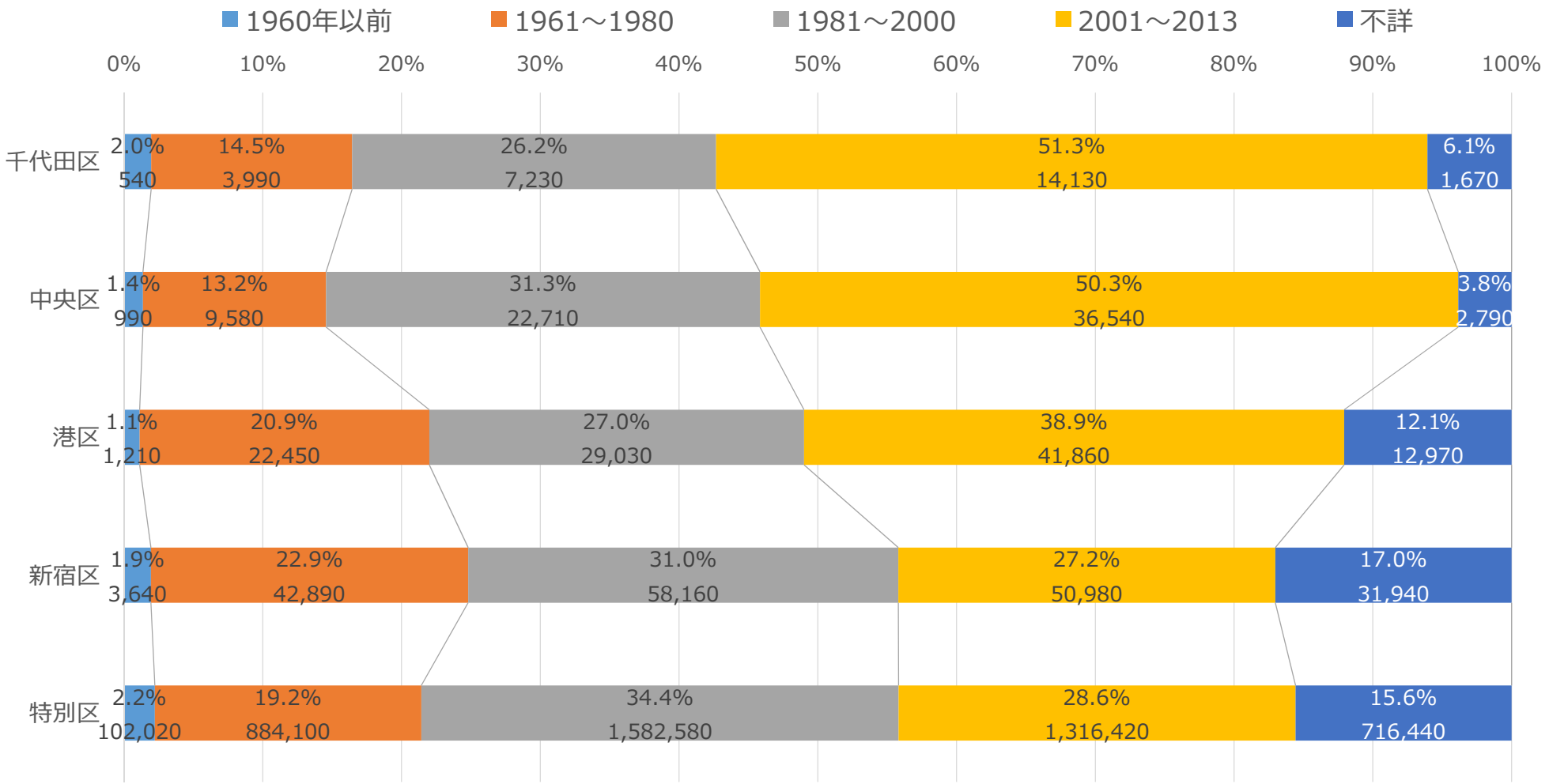
● 1住宅あたり床面積　23区の比較

	持ち家		借家	
	区	面積（㎡）	区	面積（㎡）
1	世田谷区	98.82	港　区	51.62
2	練馬区	94.64	千代田区	45.19
3	杉並区	94.36	中央区	43.12
4	目黒区	91.42	荒川区	42.82
5	江戸川区	89.26	葛飾区	42.71
12	千代田区	85.12	－	
19	台東区	79.12	杉並区	35.61
20	江東区	77.68	大田区	34.81
21	新宿区	75.29	豊島区	34.73
22	港　区	74.09	新宿区	34.39
23	中央区	66.02	中野区	31.10

7　住まいの建築時期　～2001（平成13）年以降の住宅数が5割を超える～

2001（平成13）年以降に建てられた住宅数の割合が23区の中でも特に高く、中央区とともに5割を超えています。一方、いわゆる「旧耐震期」の住宅の割合は約17%で4500戸あり、比率では中央区より高くなっています。

● 建築時期別住宅数の比較　平成25年住宅土地統計調査



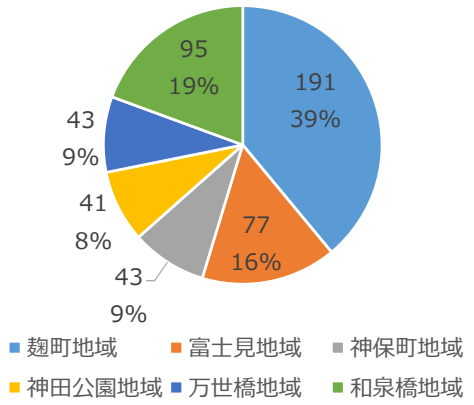
8　分譲マンションの実態　～麹町地域では「旧耐震期」竣工マンションが5割を超える～

2018（平成30）年に実施した、（公財）まちみらい千代田の「分譲マンション実態調査」によると、分譲マンションは麹町出張所地域に最も多く建っており、棟数で約40%、戸数では約33%を占めています。建築年代を見ると、和泉橋地域で、2002（平成14）年以降に建てられたマンションが多くなっている一方で、麹町地域はいわゆる「旧耐震期」の分譲マンション棟数が約5割を占めています。

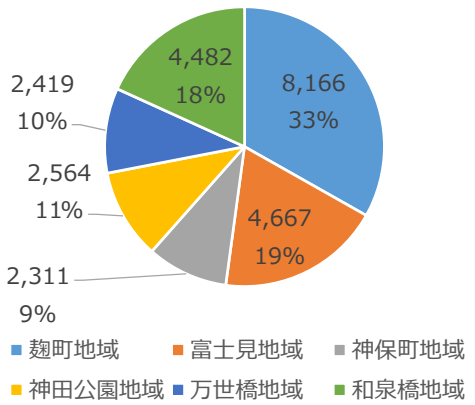
● 分譲マンション立地状況　（公財）まちみらい千代田分譲マンション実態調査（令和元年）

	棟数（棟）	戸数（戸）	平均戸数（戸）
麹町地域	191	8,166	42.8
富士見地域	77	4,667	60.6
神保町地域	43	2,311	53.7
神田公園地域	41	2,564	62.5
万世橋地域	43	2,419	56.3
和泉橋地域	95	4,482	47.2
合計	490	24,609	53.8

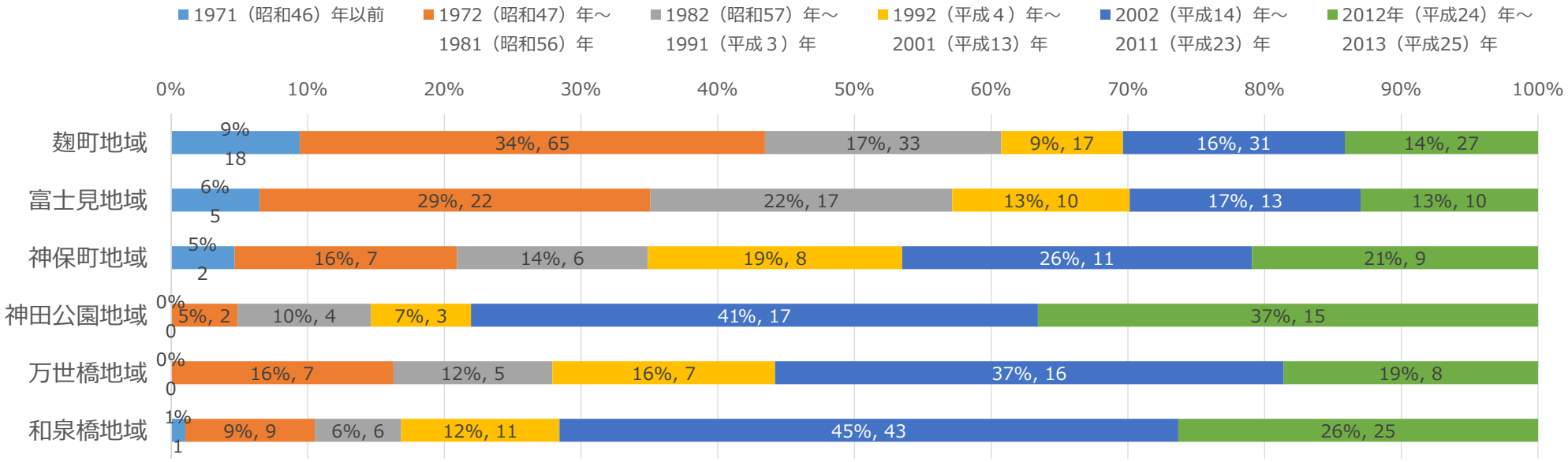
分譲マンション棟数構成比



分譲マンション戸数構成比



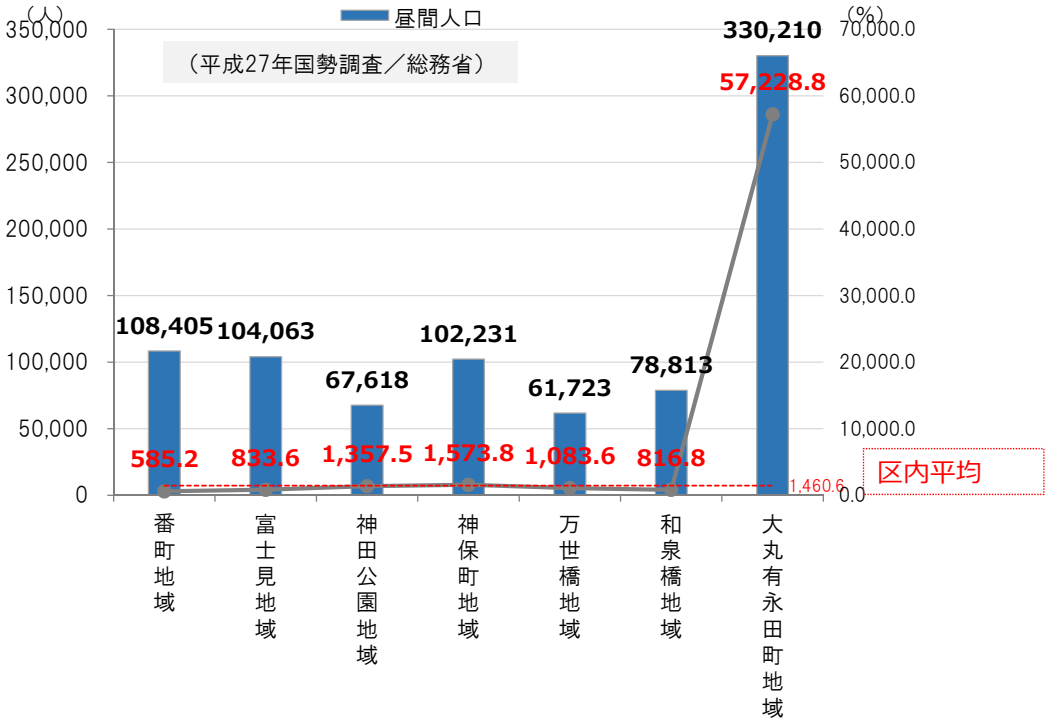
● 地域別・建築年代別分譲マンション棟数　（公財）まちみらい千代田分譲マンション実態調査（令和元年）



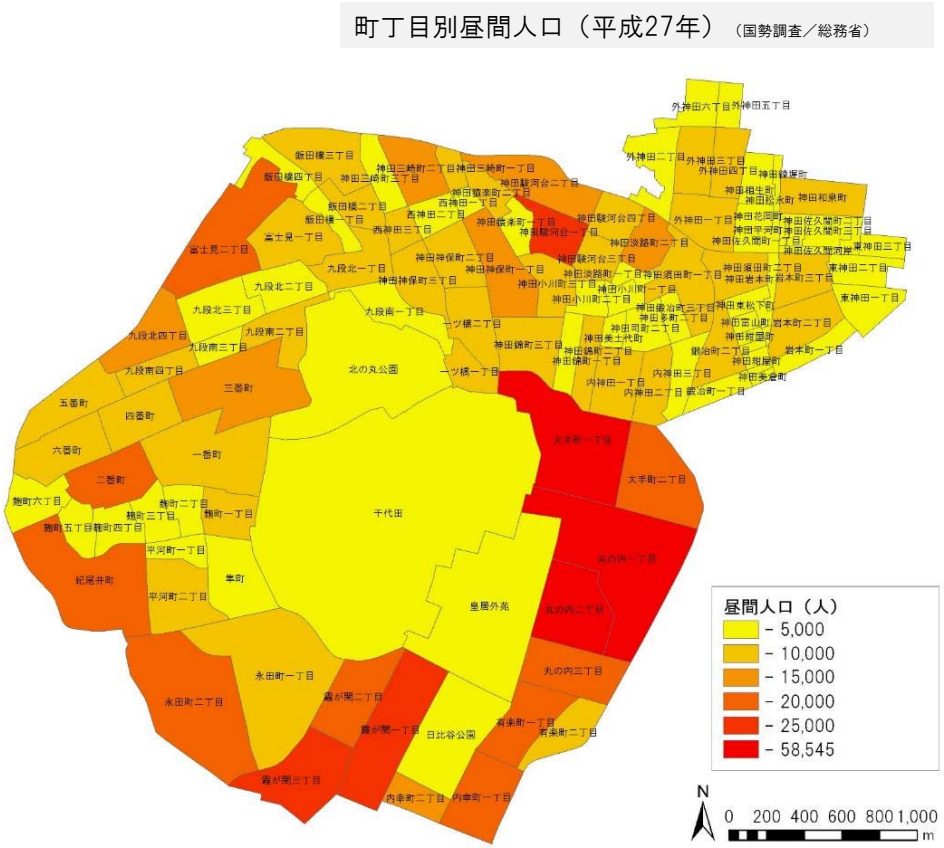
1　昼間人口　地域別動向　～大丸有永田町地域が突出、地域によっては減少～

昼間人口の動向を地域別にみると、政治・経済・情報の中枢機能が集積する大丸有永田町地域が33万人と最も多く、次いで、番町地域、富士見地域、神保町地域が10万人程度となっています。増減の状況としては、開発諸制度等で機能更新が進展した富士見地区が約20%増となっている一方で、神保町地域、神田公園地域に減少がみられます。

● 地域別昼間人口



● 町丁目別昼間人口



● 地域別昼間人口の増減

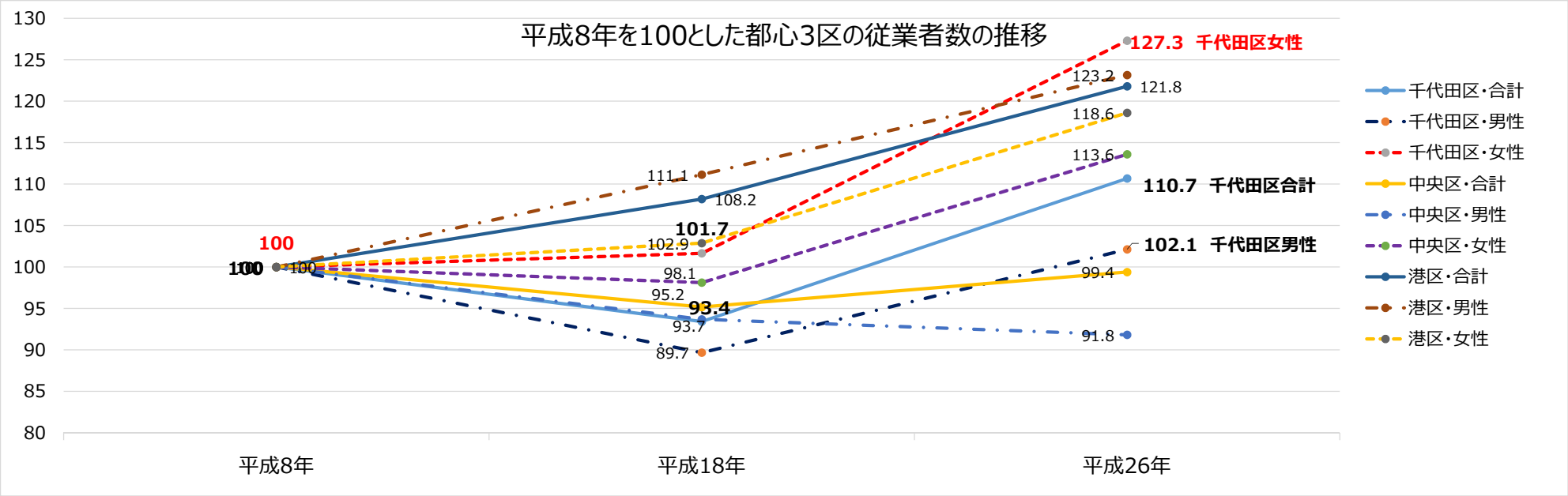
	昼間人口（人）		増減率（%）
	H12	H27	
番町地域	122,384	108,405	−11.4
富士見地域	86,677	104,063	+20.1
神保町地域	80,642	67,618	−16.2
神田公園地域	117,293	102,231	−12.8
万世橋地域	61,656	61,723	+ 0.1
和泉橋地域	81,447	78,813	− 3.2
大丸有永田町地域	305,067	330,210	+ 8.2
千代田区	855,166	853,063	− 0.2

2　従業者数の推移・都心部の比較 ～従業者数では都心区最多。女性の従業者増が顕著～

1996（平成8）年から2014（平成26）年まで、従業者数の推移をみてみると、先行して大規模開発が進んだ港区は一貫して伸長しています。千代田区、中央区は、平成18年にいったん人数を下げますが、長期的には増加傾向となっています。都心三区とも女性従業者の伸びが、男性従業者の伸びを上回っており、特に千代田区は　1996（平成8）年を100としたとき2014（平成26）年には男性が、102.1とほぼ横ばいに対し、女性は127.3となっています。

● 従業者の推移　東京都統計年鑑

	平成8(1996)年			平成18(2006)年			平成26（2014）年		
	合計（人）	男（人）	女（人）	合計（人）	男（人）	女（人）	合計（人）	男（人）	女（人）
千代田区	937,990	644,985	293,005	876,172	578,318	297,854	1,038,143	658,690	373,028
中　央　区	760,701	507,905	252,796	723,882	475,840	248,042	756,052	466,333	287,169
港　　区	833,261	535,728	297,533	901,544	595,439	306,105	1,014,842	659,809	352,884



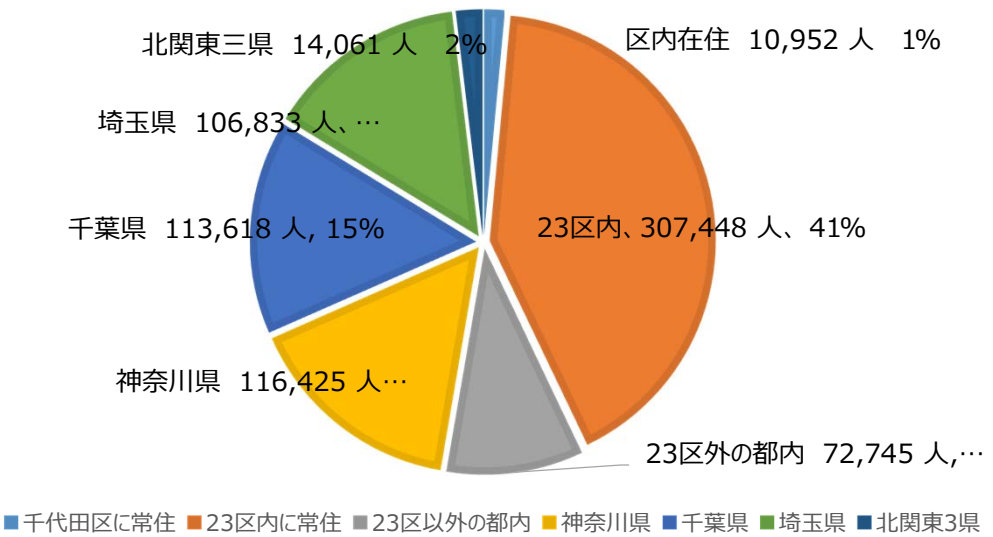
3　就業者・通学者の常住地　～23区内が約35万人、南関東三県で約37万人～

2015（平成27）年の国勢調査による就業者・通学者の常住地は、23区内で35万人、都内では約43万人、南関東三県は合わせて約37万人となっています。また、都外から千人を超える15歳未満の通学者がいます。

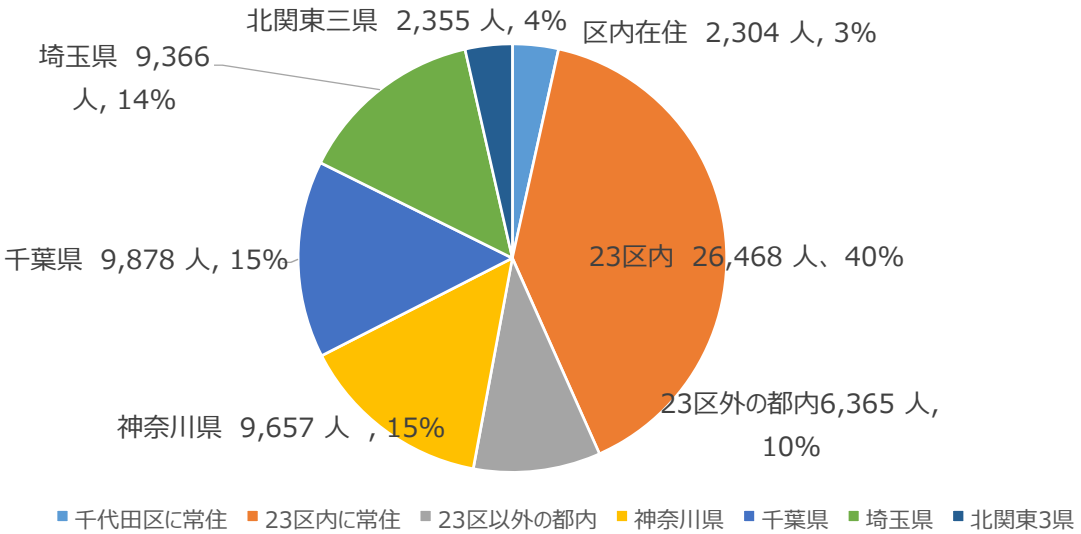
● 就業者・通学者の常住地　平成27年度国勢調査

	15歳以上就業者（人）	15歳以上通学者（人）	15歳未満通学者（人）	合計（人）
千代田区に常住	10,952	693	1,611	13,256
22区内に常住	307,448	22,615	3,853	333,916
23区以外の都内	72,745	6,071	294	79,110
神奈川県	116,425	9,223	434	126,082
千葉県	113,618	9,380	498	123,496
埼玉県	106,833	8,900	466	116,199
茨城県	10,481	1,503	15	11,999
栃木県	2,041	471	2	2,514
群馬県	1,539	361	3	1,903
その他・不詳	13,477	1,651	1,399	16,527
計	755,559	60,868	8,575	825,002

15歳以上千代田区就業者の常住地



15歳未満を含む区内通学者の常住地

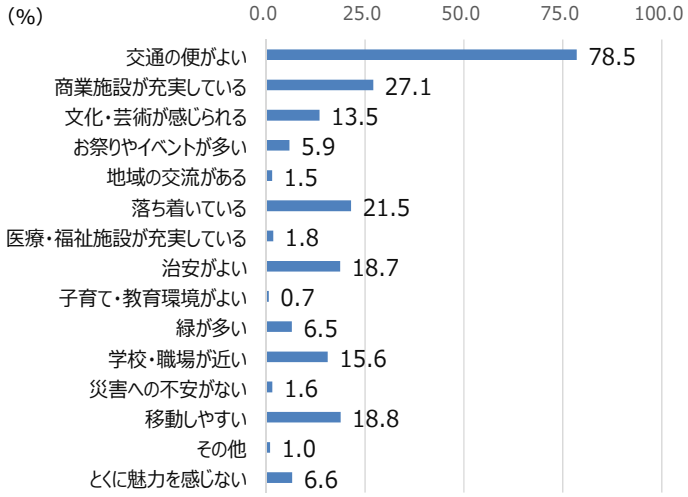


4　在勤・在学者評価　～昼間区民も交通や職住近接等、利便性を高く評価～

在勤者・在学者を対象に千代田区の魅力や過ごし方についてアンケート調査を行いました。魅力としては、千代田区全体で見ると「交通の便が良い」「商業施設が充実している」「落ち着いている」という評価が多くなっています。また、仕事・学校以外における「千代田区での過ごし方」については、全体で見ると「飲食」「買い物」と回答した人が多く、現在過ごしている時間と今後過ごしたい時間で大きな差が生じた項目は「映画や美術鑑賞」「習い事」「地域活動」となっています。

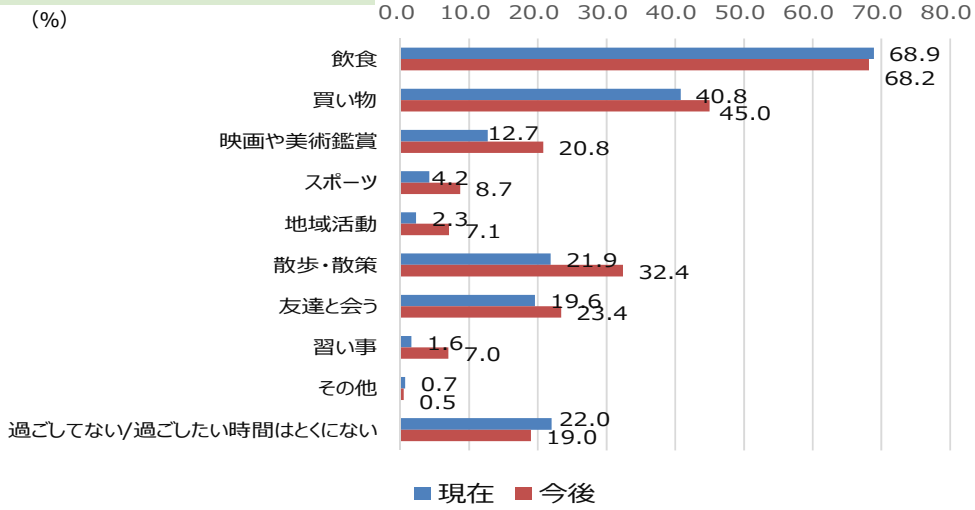
● 在勤・在学者評価　平成30年千代田区のまちづくりアンケート調査

千代田区の魅力



		千代田区の魅力（%）（３つまで選択可）														
		交通の便がよい	商業施設が充実している	文化・芸術が感じられる	お祭りやイベントが多い	地域の交流がある	落ち着いている	医療・福祉施設が充実している	治安がよい	子育て・教育環境がよい	緑が多い	学校・職場が近い	災害への不安がない	移動しやすい	その他	とくに魅力を感じない
千代田区		78.5	27.1	13.5	5.9	1.5	21.5	1.8	18.7	0.7	6.5	15.6	1.6	18.8	1.0	6.6
通勤・通学地域	番町地域	68.1	10.0	13.1	5.7	1.3	36.7	0.9	25.8	1.7	12.7	14.4	2.2	17.0	0.0	7.4
	富士見地域	71.1	11.3	14.9	11.3	1.5	28.9	1.5	25.3	1.0	11.9	16.0	1.0	15.5	1.5	8.2
	神保町地域	82.7	15.8	22.8	5.4	2.5	20.8	4.5	16.8	1.0	5.0	20.8	1.5	18.8	3.5	3.5
	神田公園地域	83.8	23.9	12.7	9.9	2.1	9.2	2.8	15.5	0.0	1.4	15.5	2.1	28.9	1.4	4.2
	万世橋地域	78.1	26.0	16.4	10.3	1.4	13.0	5.5	9.6	0.0	1.4	13.0	0.7	24.7	0.7	6.8
	和泉橋地域	79.1	28.5	9.5	15.2	3.8	12.0	1.9	4.4	0.6	0.6	10.1	1.3	25.3	0.0	10.8
	大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	82.3	38.4	12.2	2.4	1.0	21.7	0.7	21.1	0.4	7.0	16.4	1.6	17.2	0.7	4.8

仕事・学校以外の過ごし方



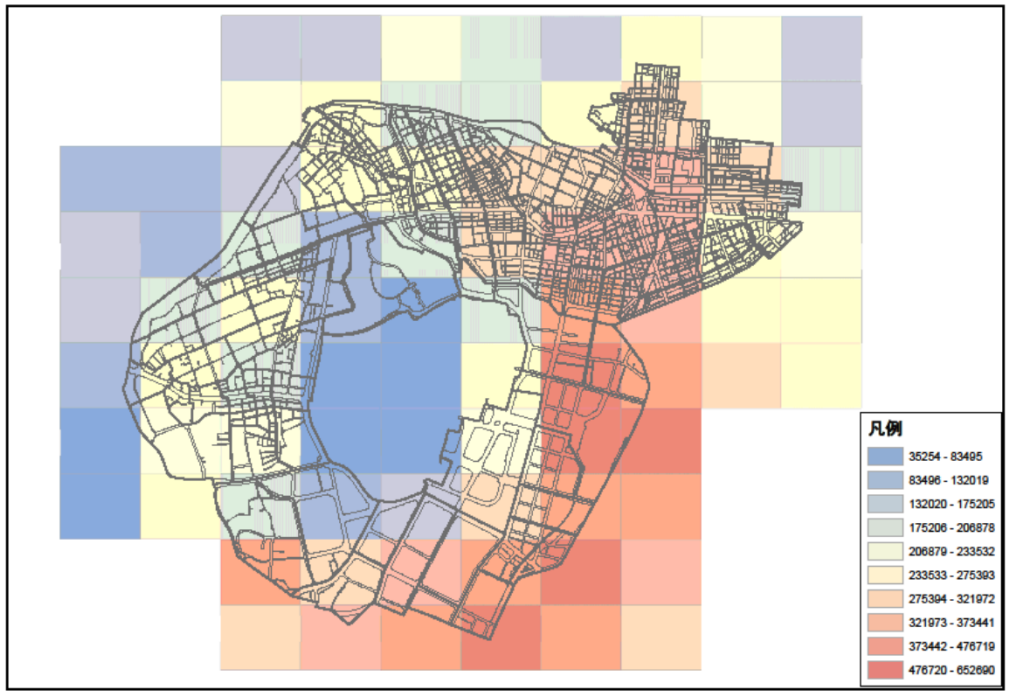
		仕事・学校以外の過ごし方（現在）（%）（複数選択可）									
		飲食	買い物	映画や美術鑑賞	スポーツ	地域活動	散歩・散策	友達と会う	習い事	その他	過ごしてない／過ごしたい時間はとくにない
千代田区		68.9	40.8	12.7	4.2	2.3	21.9	19.6	1.6	0.7	22.0
通勤・通学地域	番町地域	67.2	27.5	7.4	2.6	3.5	26.6	12.2	0.9	1.3	26.2
	富士見地域	59.8	26.8	8.8	5.7	3.1	23.7	15.5	0.5	1.5	29.4
	神保町地域	76.2	37.1	10.9	2.5	2.5	25.7	24.3	2.0	1.0	15.3
	神田公園地域	73.9	35.9	8.5	5.6	1.4	18.3	16.9	1.4	0.0	19.0
	万世橋地域	68.5	45.2	4.1	5.5	0.0	19.2	13.7	0.0	0.7	20.5
	和泉橋地域	69.6	43.0	7.6	3.8	3.8	16.5	16.5	2.5	0.0	19.0
	大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	70.7	49.3	18.6	4.5	2.1	22.2	23.9	2.2	0.5	20.1

5　人口分布

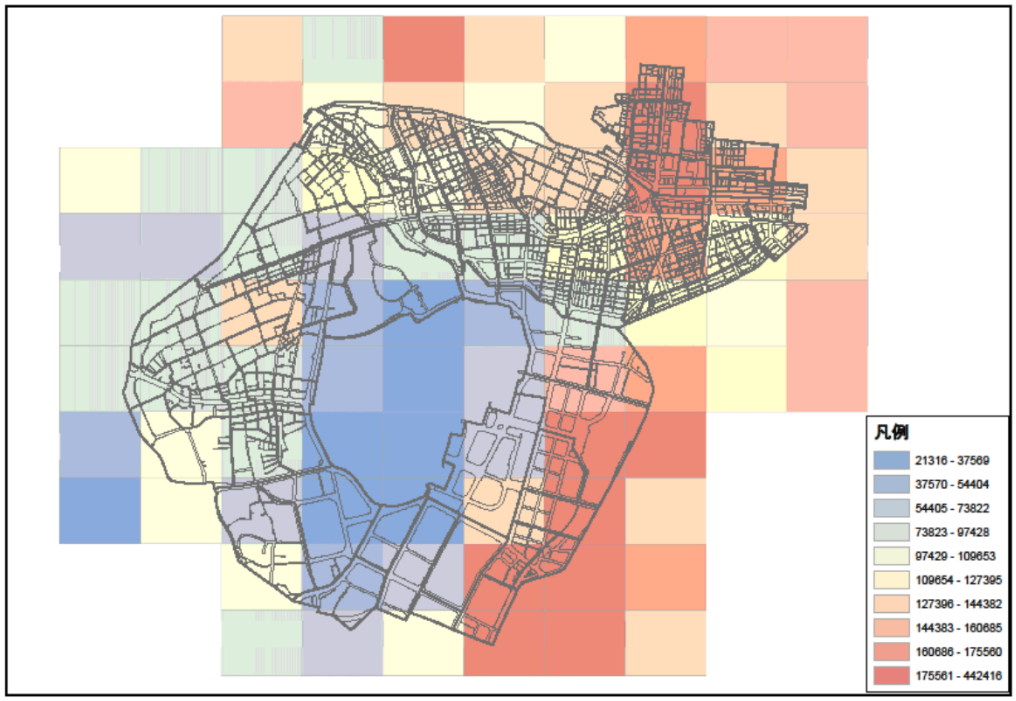
平日の人口集積は、大手町・丸の内・有楽町地区を中心に神田公園地域側に集中しており、休日に比べ広い範囲に集積が見られ、休日の人口集積は、東京駅前から日比谷、銀座方面と秋葉原に集中している。数としては、平日は休日に比べ、３倍程度の人の集積が見られる。

● 人口分布　千代田区調査

５００ｍメッシュヒートマップ（平日累計）



５００ｍメッシュヒートマップ（休日累計）

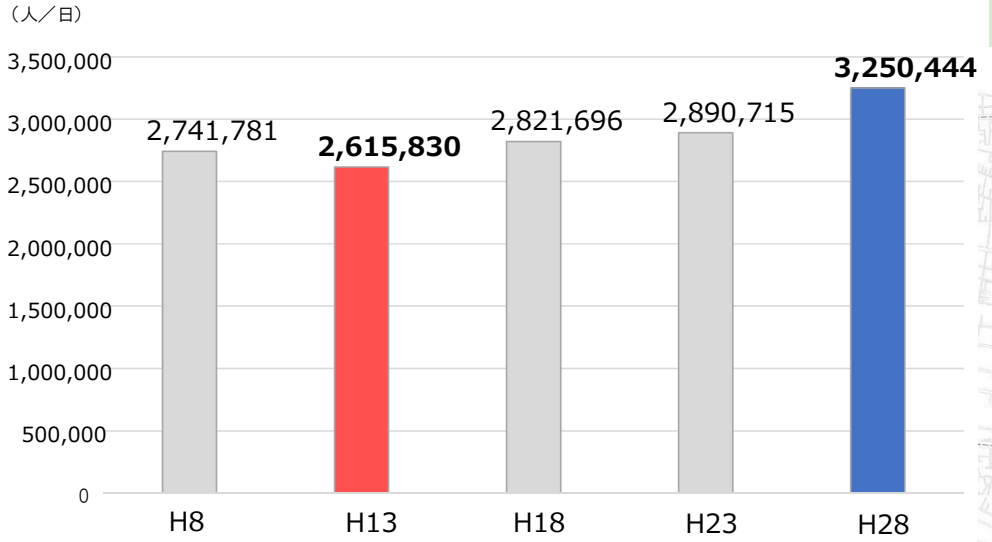


※2018年1月～2018年12月のログを分析対象としている
※モバイル空間統計によるドコモの携帯電話ネットワークの仕組みを使用して作成された人口統計です

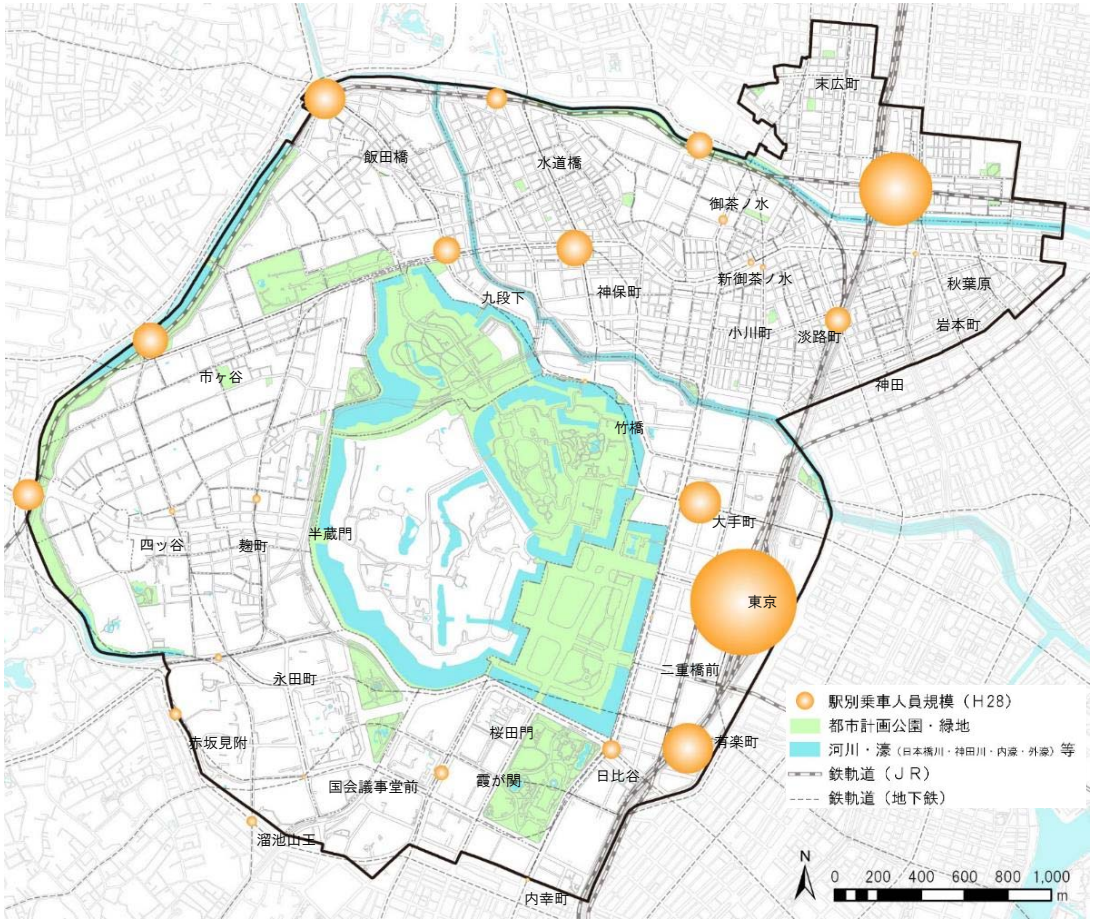
1　鉄道駅乗車人数の動向

2005（平成17）年のつくばエクスプレス開業以降、鉄道駅乗車人員の増加が続き、2016（平成28）年現在、1日平均約325万人が、区内の鉄道駅を利用しています。また、東京駅、秋葉原駅をはじめ、区内11の駅で一日10万人を超える乗車があります。また、行政区域面積当たりの鉄道駅数も23区で最も多くなっています。

● 鉄道駅の利用、配置状況



駅別乗車人員の規模（平成28年）　東京都統計年鑑



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1の地形図を使用して作成したものである。（承認番号）30都市基交第44号

◀一日平均乗車人数10万人以上の駅
（平成30年行政基礎資料集）

行政面積当たりの駅数
東京都統計年鑑(平成30年)

上位５区	行政面積あたりの駅数（駅／km²）
千代田区	2.23
中央区	2.15
港区	1.62
新宿区	1.48
台東区	1.48

駅名	乗車人員数（人／日）
東京	539,260
秋葉原	370,888
有楽町	254,753
大手町	213,641
飯田橋	206,447
神保町	183,978
市ヶ谷	180,049
四ッ谷	157,721
九段下	138,885
御茶ノ水	133,811
神田	131,164

2　観光客の動向　～増加する観光客、外国人観光客の伸長が顕著～

東京都全体を訪れる観光客は、年々増加しています。2004（平成16年）と2017（平成29年）の1年間の観光客推計人員を比べると、約1億6700人（回）、1日あたりおよそ45万７千人の増と推計されます。特に、外国人観光客はこの間2倍以上増加し、とりわけ、宿泊が5倍以上となり、1日当たり約2万８千人が都内に宿泊していると推計されます。

複数の調査から東京駅周辺（日本橋含む）が年約460万人（1日当たり約1万３千人）、秋葉原が約540万人（1日当たり約1万5千人）の外国人観光客が訪れていると推計されます。

● 訪都観光客の動向

観光入込客数（実人数）の推計東京都観光客数等実態調査　単位千人回

	2004（平成16）年				2017（平成29）年　()内増減率			
	都内在住者	道府県在住者	外国在住者	計	都内在住者	道府県在住者	外国在住者	計
観光入込客数	199,294	166,684	4,180	370,158	272,392 (36.7%)	250,919 (50.5%)	13,774 (229.5%)	537,085 (45.1%)
宿泊観光客	2,879	29,271	1,615	33,765	9,454 (228.4%	24,546 (-16.1%)	10,304 (538.0%)	44,303 (31.2%)
日帰り観光客数	96,415	137,413	2,565	336,393	262,938 (172.7%)	226,373 (64.7%)	3,471 (35.3%)	492,782 (46.5%)

● 外国人観光客の動向　外国人観光客（推計）

東京都観光客数等実態調査、国別外国人旅行者行動特性調査　から推計

	H25	H29	増減数	増減率（%）
訪都外国人（万人）　(A)	681.2	1,377.4	696.2	102.2
訪問地の割合（%）　(B)				
東京駅周辺・丸の内・日本橋	41.2	33.5	–	–
秋葉原	37.4	39.0	–	–
区内観光地への外国人観光客数（万人）　(A×B)				
東京駅周辺・丸の内・日本橋	280.7	461.4	180.8	64.4
秋葉原	254.8	537.2	282.4	110.9

● 大丸有地区における滞在者数（推計）

大丸有地区都市安全確保計画

属性	平日15時における滞在者数（人）
従業者	約21.6万
ビジネス来訪者	約　3.0万
一般来訪者・観光客	**約　2.8万**
鉄道旅客	約　4.6万
合計	約32.0万

震災等から多くの来街者の安全を守るため策定された「大手町・丸の内・有楽町地区都市再生安全確保計画」では、平日15時における地域の一般来訪者、観光客をおよそ2.8万人と想定しています。